

2-2-3 分野設問の結果及び分析

(1) 煎茶道

本調査では、煎茶道への興味関心や経験の有無等の把握を目的として2万人にウェブアンケート調査を実施した。

アンケートでは、煎茶道を稽古場等で習ったような経験者、イベント等で体験した体験者、全く経験がない未経験者がいることが想定されることから、煎茶道の経験・体験の有無について回答する設問を設けた。その上で、下記の表のように経験の深度に応じた専用の設問群を設けることで、各回答者の煎茶道への興味関心の有無などの把握を行った。

■分野設問の項目

<p>「1. 習っている (いた)、あるいは教える立場にいる (いた)」と回答した者への設問</p>	<p>AQ1 : 煎茶道を習い始めたきっかけ AQ2 : 煎茶道を始めた当初の習い方 AQ2 補問 : 当初の習い方を選んだ理由 AQ3 : 現在の継続状況 AQ3 補問1 : 煎茶道を続けている理由 AQ3 補問2 : 煎茶道から離れたきっかけや理由 AQ4 : 煎茶道を続けている (続けていた) 年数 AQ5 : 煎茶道に関する活動内容 AQ6 : 煎茶道に関する活動頻度 AQ7 : 煎茶道に関する月額費用 AQ8 : 煎茶道に関する興味関心や魅力</p>
<p>「2. 学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある」と回答した者への設問</p>	<p>AQ9 : 煎茶道を体験したきっかけ AQ10 : 煎茶道を体験した場 AQ11 : 煎茶道を習いやすい状況 AQ12 : 煎茶道に支払える月額費用 AQ13 : 煎茶道を習っていない理由 AQ14 : 煎茶道に対する印象やイメージ AQ15 : 煎茶道に関する興味関心や魅力</p>
<p>「3. 今まで経験したことはない」と回答した者への設問</p>	<p>AQ16 : 参加してみたい煎茶道の体験内容 AQ17 : 参加しやすい煎茶道の体験条件 AQ18 : 煎茶道を体験したことがない理由 AQ19 : 煎茶道に対する印象やイメージ AQ20 : 煎茶道に関する興味関心や魅力</p>

①単純集計の結果について

■全調査対象者への設問

煎茶道を経験した者、あるいは全く触れたことがない者がどの程度いるのかは、統計調査等では明らかとなっていない。加えて、煎茶道の「経験」にも深度があり、いわゆる稽古場や教室等で習った経験がある者や、稽古場や教室等で教える立場にいる者、あるいは、イベント等で煎茶会等に参加し体験をしたことがある者等があると想定される。経験の有無を大別するならば、教室等で習ったあるいは教える立場にいる者、イベント等で体験をした者、そして経験をしたことがない者に分けることができると考えられる。

本設問では、上記の想定に基づき、煎茶道の経験の有無とあわせて、経験の深度を図る選択肢を設けて、実態の把握を行った。

煎茶道の経験・体験の有無

煎茶道を「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」（以下、「経験あり」）比率は5.1%（1,019人）、「学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある」（以下、「参加体験あり」）13.6%（2,715人）、「今まで経験したことはない」（以下「未経験」）81.3%（16,266人）となった。

男女別では、女性の「経験あり」が7.7%、「参加体験あり」が17.2%と男性よりも高い。

年齢別では、「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者ともに70代以上が最も高い。また、全体の傾向を見ると、「経験あり」の60代以上、「参加体験あり」の18～20代と70代以上が全体平均より高く、40～50代は全体平均より低い回答比率である。

		(%)			
		習っている(いた)、あるいは教える立場にいる(いた)		学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある	今まで経験したことはない
n =					
全体	20,000	5.1	13.6	81.3	
性別	男	2.4	9.9	87.7	
	女	7.7	17.2	75.2	
	それ以外／答えたくない	2.0	9.2	88.9	
年齢	18～20代	5.1	15.4	79.5	
	30代	3.7	13.6	82.7	
	40代	2.7	11.2	86.1	
	50代	3.2	11.2	85.6	
	60代	5.5	12.8	81.7	
	70代以上	8.6	16.3	75.1	

集計表 F Q 1 : 煎茶道の経験・体験の有無

■煎茶道を「習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）」と回答した者への設問（AQ1～AQ8）

本設問群では、煎茶道を経験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会に煎茶道を習い、興味関心を持っているのか等、経験者の実態を把握するためのアンケートを実施した。

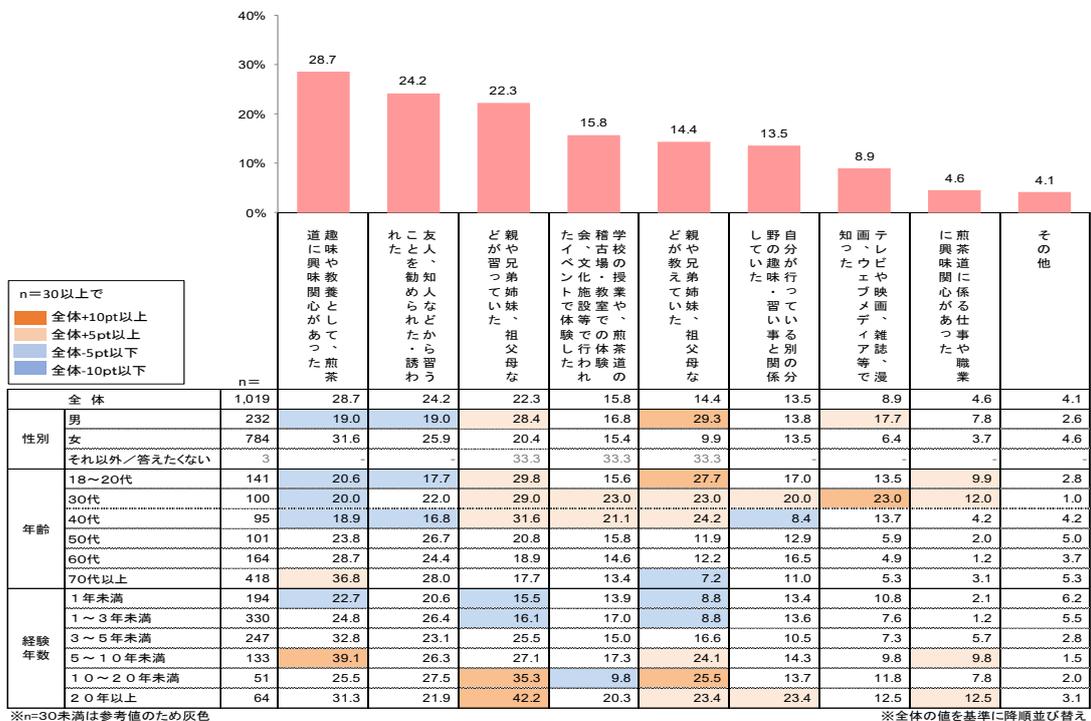
煎茶道を習い始めたきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」の28.7%で、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」24.2%、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」22.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（29.3%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（28.4%）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（17.7%）の回答比率は全体平均より高く、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（ともに19.0%）の回答比率が全体平均より低い。

次に、年齢別で見ると、10～40代で「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」と「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」が全体平均よりも回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」と「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」、「煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった」については、経験年数が長いほど回答比率が高くなっている。



集計表 AQ1：煎茶道を習い始めたきっかけ

(その他の内容) 職場に教室があった、親に勧められた、部活動

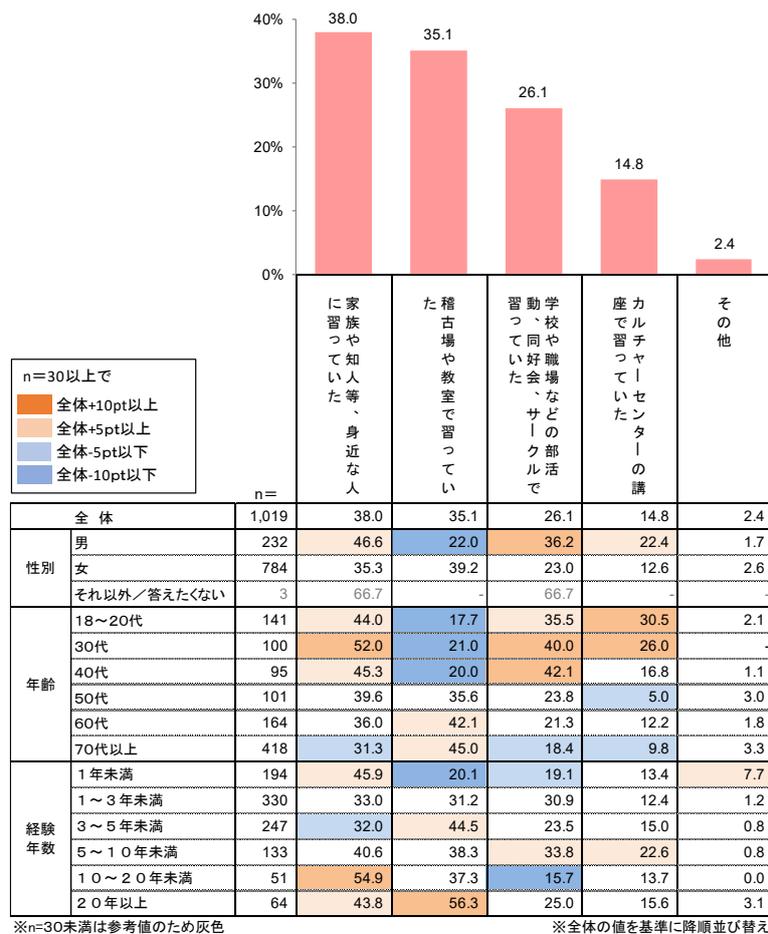
煎茶道を始めた当初の習い方

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や知人等、身近な人に習っていた」の38.0%で、次いで「稽古場や教室で習っていた」35.1%、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」26.1%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」(36.2%)、「カルチャーセンターの講座で習っていた」(22.4%)が全体平均より回答比率が高く、「稽古場や教室で習っていた」(22.0%)が全体平均より回答比率が低い。

次に年齢別では、「稽古場や教室で習っていた」の回答比率は、10～40代までの者で全体平均の数値よりも低く、60代以上の高年齢の者では全体平均より高い回答比率が出ている。

経験年数別で見た場合、「家族や知人等、身近な人に習っていた」では、1年未満(45.9%)と10～20年未満(54.9%)の回答比率が高く、3～5年未満(32.0%)の回答比率が低い。また、「稽古場や教室で習っていた」と比べると、20年以上(56.3%)の回答比率が高く、「1年未満」(20.1%)の回答比率は低いことが分かる。



集計表 AQ2：煎茶道を始めた当初の習い方

(その他の内容) 個人の先生、家に先生が来て習っていた

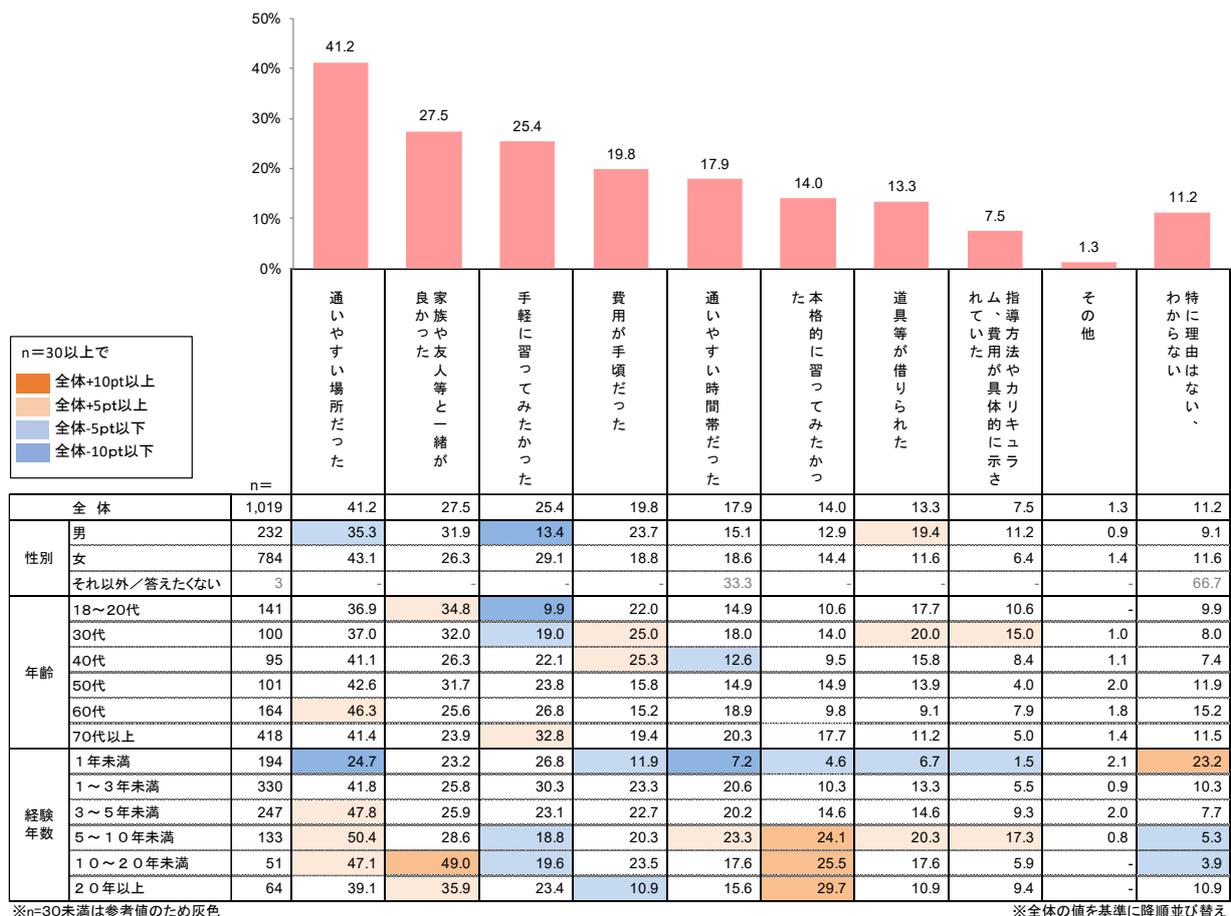
当初の習い方を選んだ理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所だった」の41.2%で、次いで「家族や友人等と一緒に良かった」27.5%、「手軽に習ってみたかった」25.4%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では男性で「道具等が借りられた」(19.4%)の回答比率が高く、「手軽に習ってみたかった」(13.4%)の回答比率は低い。

年齢別では「指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた」では30代の回答比率が高く、「手軽に習ってみたかった」では、70代以上の回答比率が高い一方、10～30代の者ほど回答比率が低い傾向にある。

経験年数別では、経験年数が長いほど「家族や友人等と一緒に良かった」、「本格的に習ってみたかった」の回答比率が高くなる傾向が見られるほか、1年未満と20年以上の経験年数の者を除き、「通いやすい場所だった」との回答比率は高い。



集計表 AQ2補問：当初の習い方を選んだ理由

(その他の内容) 親の勧め、会社に入社すると入る、免許がもらえた

現在の継続状況

「続けている」23.3%（237人）、「続けない」76.7%（782人）と、続けないとの回答比率が高い。

男女別で見た場合、男性で「続けている」が55.6%と高い一方、女性では13.8%と低く、年齢別では若年者ほど「続けている」への回答比率が高い。

経験年数別では、5年以上の人で「続けている」比率が全体平均の回答比率（23.3%）を上回っており、年数が多いほど「続けている」という回答比率が高くなる傾向が見られる。

また、世帯年収別で見た場合、800万円以上～900万円未満の家庭で「続けている」という回答比率が極めて高くなっている。

		n=	（%）	
			続けている	続けない
全体		1,019	23.3	76.7
性別	男	232	55.6	44.4
	女	784	13.8	86.2
	それ以外／答えたくない	3		100.0
年齢	18～20代	141	61.7	38.3
	30代	100	55.0	45.0
	40代	95	35.8	64.2
	50代	101	19.8	80.2
	60代	164	9.1	90.9
	70代以上	418	6.2	93.8
経験年数	1年未満	194	10.3	89.7
	1～3年未満	330	15.8	84.2
	3～5年未満	247	22.7	77.3
	5～10年未満	133	31.6	68.4
	10～20年未満	51	45.1	54.9
	20年以上	64	68.8	31.3
昨年度の世帯年収	100万円未満	48	41.7	58.3
	100万円以上～200万円未満	86	16.3	83.7
	200万円以上～300万円未満	100	22.0	78.0
	300万円以上～400万円未満	126	25.4	74.6
	400万円以上～500万円未満	100	27.0	73.0
	500万円以上～600万円未満	76	19.7	80.3
	600万円以上～700万円未満	54	29.6	70.4
	700万円以上～800万円未満	43	20.9	79.1
	800万円以上～900万円未満	48	54.2	45.8
	900万円以上～1,000万円未満	34	29.4	70.6
	1,000万円以上	107	30.8	69.2
	分からない	197	6.6	93.4

※n=30未満は参考値のため灰色

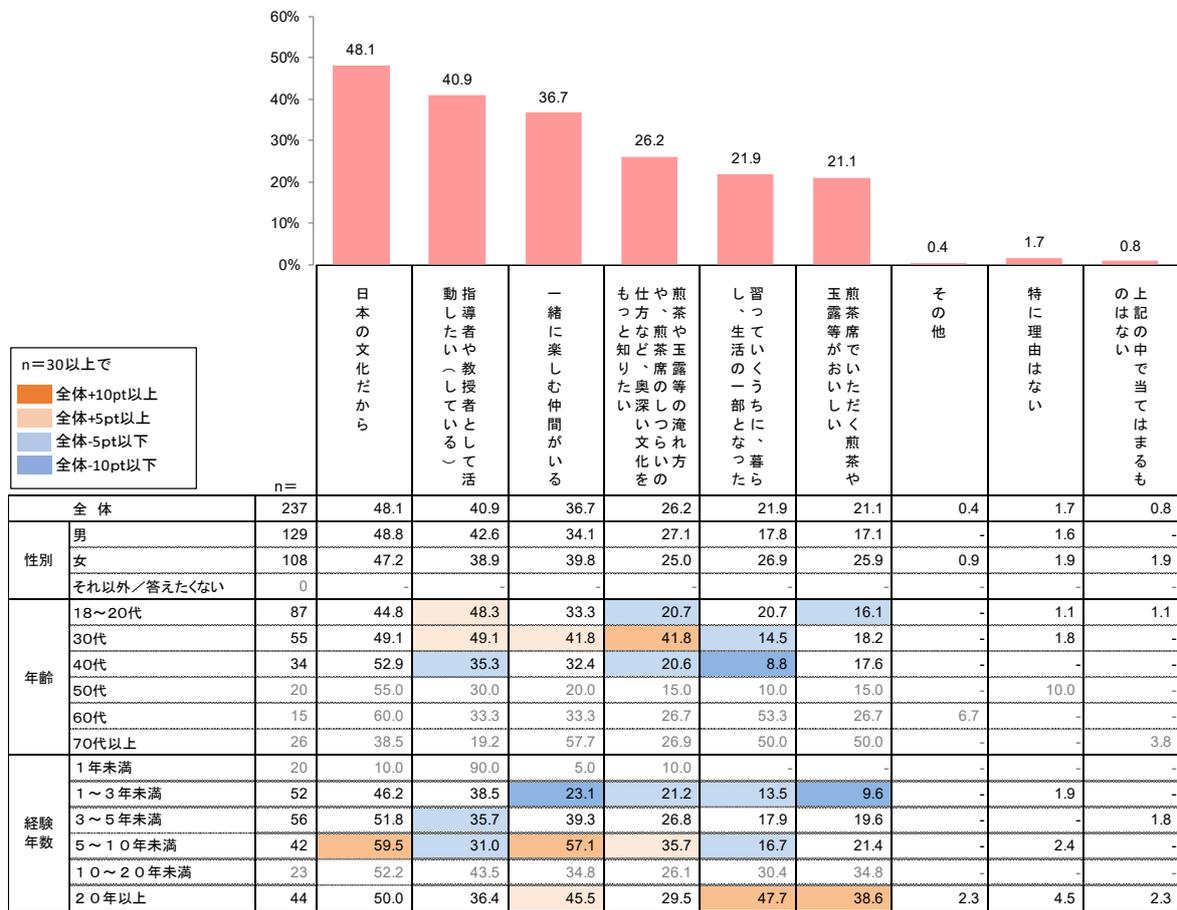
集計表 AQ3：現在の継続状況

煎茶道を続けている理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の文化だから」の48.1%で、次に「指導者や教授者として活動したい(している)」40.9%、「一緒に楽しむ仲間がいる」36.7%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、年齢別で見た場合、「煎茶や玉露等の淹れ方や、煎茶席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい」の回答比率が、「30代」(41.8%)で特に高く、「18~20代」(20.7%)、「40代」(20.6%)が低い。また、「30代」では、「指導者や教授者として活動したい(している)」(49.1%)、「一緒に楽しむ仲間がいる」(41.8%)の回答比率も全体平均より高い。

経験年数別で見た場合、経験年数が20年以上の者で、「習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった」(47.7%)、「煎茶席でいただく煎茶や玉露等がおいしい」(38.6%)、5~10年未満の者では、「日本の文化だから」(59.5%)、「一緒に楽しむ仲間がいる」(57.1%)の回答比率が高い。



集計表 AQ3補問1：煎茶道を続けている理由

(その他の内容) 海外で便利

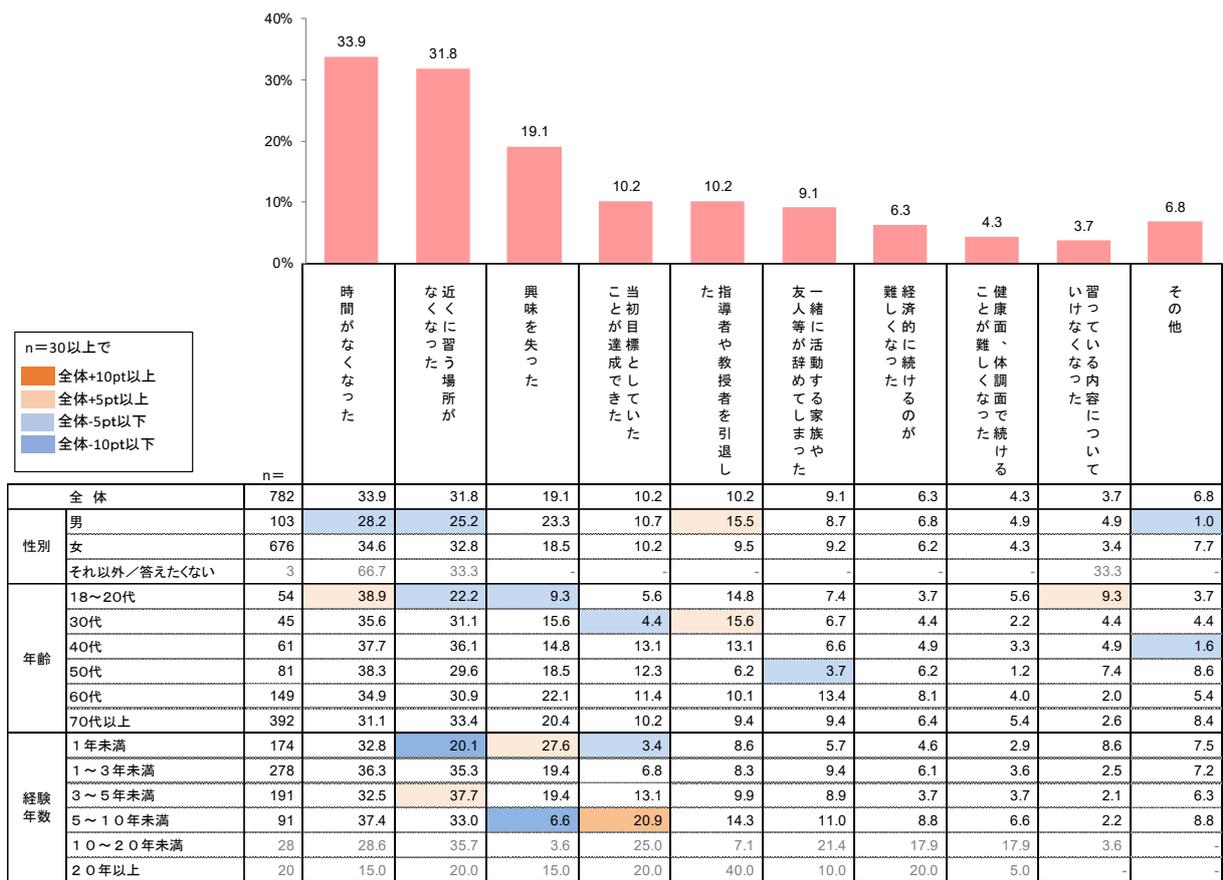
煎茶道から離れたきっかけや理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「時間がなくなった」の33.9%で、次いで「近くに習う場所がなくなった」31.8%、「興味を失った」19.1%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「時間がなくなった」(28.2%)、「近くに習う場所がなくなった」(25.2%)の回答比率が低く、「指導者や教授者を引退した」(15.5%)が高い。

次に年齢別で見た場合、18～20代の者では、「時間がなくなった」(38.9%)、「習っている内容についていけなくなった」(9.3%)の回答比率が高い一方、「近くに習う場所がなくなった」(22.2%)、「興味を失った」(9.3%)と回答比率が低いことが分かる。

経験年数別では、経験年数が5～10年未満の者で「当初目標としていたことが達成できた」(20.9%)の回答比率が高く、「興味を失った」(6.6%)が低い回答比率になっている。また、1年未満の者では、「興味を失った」(27.6%)の回答比率が高い一方、「近くに習う場所がなくなった」(20.1%)が低い回答比率となっている。



集計表 AQ3補問2：煎茶道から離れたきっかけや理由

(その他の内容) 引っ越しをした、部活を卒業した、退職したので習えなくなった

煎茶道を続けている（続けていた）年数

全体平均で最も回答比率が高いのは「1～3年未満」の32.4%で、次いで「3～5年未満」24.2%、「1年未満」19.0%と続く。全体で3年以上続けている（いた）人の比率は48.6%となっている。

男女別では、3年以上継続している回答者は男性で52.6%（232人中122人）、女性で47.4%（784人中372人）となっており、男性の方が長期に続けている（いた）人の割合が多いことが分かる。

		n=	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	(%)
全体		1,019	19.0	32.4	24.2	13.1	5.0	6.3	48.6
性別	男	232	23.3	24.1	26.7	13.4	5.2	7.3	52.6
	女	784	17.7	34.8	23.6	12.9	5.0	6.0	47.4
	それ以外／答えたくない	3	33.3	33.3	33.3				33.3
年齢	18～20代	141	19.9	34.8	27.0	11.3	3.5	3.5	45.4
	30代	100	14.0	31.0	22.0	19.0	6.0	8.0	55.0
	40代	95	22.1	25.3	18.9	14.7	7.4	11.6	52.6
	50代	101	21.8	31.7	21.8	11.9	5.9	6.9	46.5
	60代	164	20.7	29.3	24.4	12.8	7.3	5.5	50.0
	70代以上	418	17.9	34.9	25.6	12.2	3.6	5.7	47.1

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表 AQ4：煎茶道を続けている（続けていた）年数

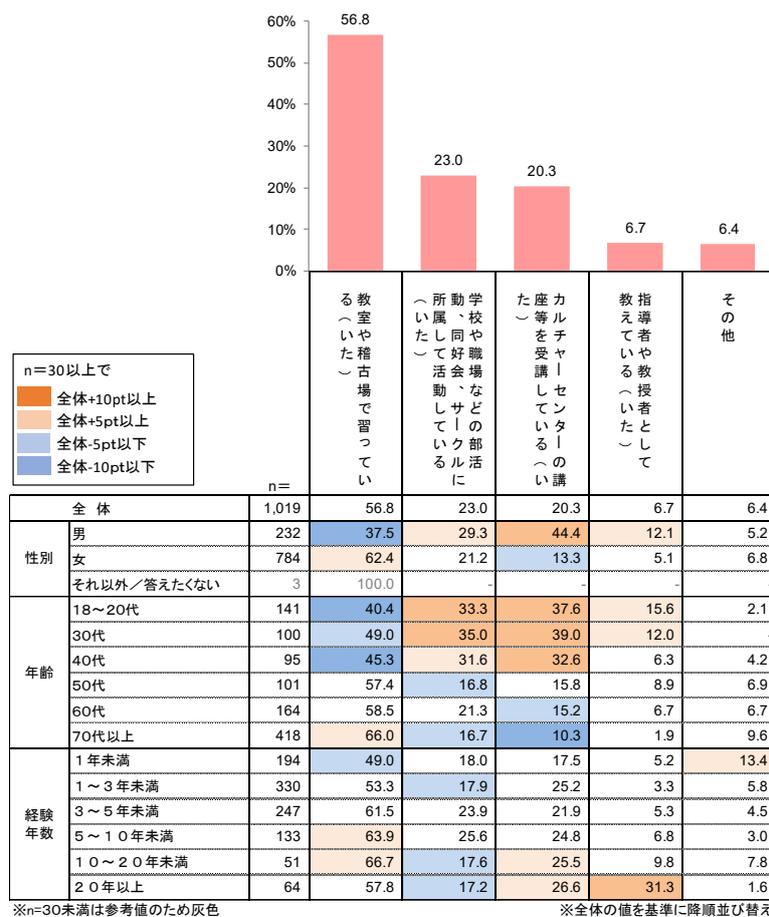
煎茶道に関する活動内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「教室や稽古場で習っている (いた)」の 56.8%で、次いで「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している (いた)」23.0%、「カルチャーセンターの講座等を受講している (いた)」20.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「カルチャーセンターの講座等を受講している (いた)」(44.4%)、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している (いた)」(29.3%)、「指導者や教授者として教えている (いた)」(12.1%)の回答比率が高い。女性の場合は、「教室や稽古場で習っている (いた)」(62.4%)の回答比率が高い。

次に年齢別では、「カルチャーセンターの講座等を受講している (いた)」、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している (いた)」で10~40代の者の回答比率が高く、「教室や稽古場で習っている (いた)」は年齢が高くなるにつれ回答比率が高くなっている。

経験年数別では、1年未満の者で、「教室や稽古場で習っている (いた)」(49.0%)、1~3年未満の者で、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している (いた)」(17.9%)の回答比率が低い。



集計表 AQ5：煎茶道に関する活動内容

(その他の内容) 個人宅で習った、習っていない、自宅で親が教えていた

煎茶道に関する活動頻度

全体平均で最も回答比率が高いのは「週1回程度」の44.5%で、次いで「月数回程度」14.9%、「年1回程度」11.4%と続く。週1回以上活動している（いた）比率は61.3%（1,019人中625人）である。

年齢別では、18～20代で「ほぼ毎日」（19.1%）、「週に2～3回」（24.8%）と、回答比率が高い。その一方で、年齢が上がっていくと「週1回程度」の回答比率が上がっていく傾向が見える。

経験年数別で見ると、経験年数が1～10年未満の者で「週1回程度」の回答比率が高い。

また、1年未満で、週1回以上活動している（いた）と回答した比率が38.7%（194人中75人）と低い。

		n=	ほぼ毎日	週に2～3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度	(%)
全体		1,019	6.5	10.4	44.5	14.9	8.9	3.4	11.4	61.3
性別	男	232	14.7	18.1	29.7	15.5	8.6	4.3	9.1	62.5
	女	784	4.1	8.0	48.9	14.7	9.1	3.2	12.1	61.0
	それ以外／答えたくない	3		33.3	33.3	33.3				66.7
年齢	18～20代	141	19.1	24.8	25.5	13.5	7.1	2.8	7.1	69.5
	30代	100	14.0	24.0	29.0	12.0	9.0	4.0	8.0	67.0
	40代	95	9.5	10.5	34.7	17.9	9.5	3.2	14.7	54.7
	50代	101	2.0	7.9	39.6	15.8	9.9	5.0	19.8	49.5
	60代	164	2.4	6.1	59.1	9.1	10.4	3.7	9.1	67.7
	70代以上	418	2.4	4.5	52.2	17.5	8.6	3.1	11.7	59.1
経験年数	1年未満	194	10.3	1.5	26.8	12.9	14.4	5.2	28.9	38.7
	1～3年未満	330	4.2	13.6	50.3	13.0	7.0	2.4	9.4	68.2
	3～5年未満	247	2.8	12.6	52.2	17.0	6.9	1.6	6.9	67.6
	5～10年未満	133	3.0	8.3	56.4	17.3	9.0	2.3	3.8	67.7
	10～20年未満	51	9.8	21.6	33.3	9.8	9.8	11.8	3.9	64.7
	20年以上	64	25.0	7.8	21.9	21.9	9.4	6.3	7.8	54.7

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表 AQ6：煎茶道に関する活動頻度

煎茶道に関する月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは月額「5,000円未満」の53.0%で、次いで「5,000円以上～10,000円未満」22.8%、「10,000円以上～15,000円未満」9.2%と続く。なお、月額1万円以上支出している（いた）と回答した比率は24.2%（1,019人中247人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較した場合、まず男女別では、男性で月額1万円以上支出している（いた）割合は51.3%（232人中119人）、女性は16.3%（784人中128人）と男女差が見られる。年齢別で見ると、年齢が低いほど、月額1万円以上支出している（いた）割合が高いことが分かる。

経験年数別では、年数が多いほど月額1万円以上支出している（いた）と回答している割合が高く、1年未満では10.3%（194人中20人）だが、20年以上では53.1%（64人中34人）となっている。

		n=	5,000円未満	5,000円以上～10,000円未満	10,000円以上～15,000円未満	15,000円以上～20,000円未満	20,000円以上～25,000円未満	25,000円以上～30,000円未満	30,000円以上～35,000円未満	35,000円以上～40,000円未満	40,000円以上～45,000円未満	45,000円以上～50,000円未満	50,000円以上	合計
			53.0	22.8	9.2	4.2	4.0	2.2	0.7	0.6	0.6	0.5	2.3	24.2
性別	男	232	28.9	19.8	16.4	9.9	9.5	5.6	1.7	1.7	1.3	1.3	3.9	51.3
	女	784	60.1	23.6	7.1	2.6	2.4	1.1	0.4	0.3	0.4	0.3	1.8	16.3
	それ以外／答えたくない	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢	18～20代	141	29.1	14.9	20.6	11.3	10.6	4.3	1.4	1.4	0.7	2.8	2.8	56.0
	30代	100	25.0	20.0	17.0	10.0	8.0	5.0	3.0	2.0	4.0	-	6.0	55.0
	40代	95	40.0	23.2	9.5	6.3	8.4	4.2	1.1	1.1	1.1	-	5.3	36.8
	50代	101	46.5	30.7	9.9	4.0	2.0	1.0	-	1.0	-	1.0	4.0	22.8
	60代	164	54.9	31.7	8.5	0.6	1.2	0.6	0.6	-	-	-	1.8	13.4
	70代以上	418	71.5	20.6	3.6	1.4	1.4	1.2	-	-	-	-	0.2	7.9
経験年数	1年未満	194	75.8	13.9	3.1	2.1	1.0	0.5	-	-	-	-	3.6	10.3
	1～3年未満	330	65.8	21.5	7.0	1.5	1.8	1.2	0.3	0.6	-	0.3	-	12.7
	3～5年未満	247	44.1	26.3	12.1	6.5	4.9	2.4	1.2	0.8	0.8	0.4	0.4	29.6
	5～10年未満	133	30.1	30.1	14.3	6.8	9.8	2.3	1.5	1.5	1.5	1.5	0.8	39.8
	10～20年未満	51	23.5	27.5	15.7	7.8	7.8	3.9	2.0	-	3.9	2.0	5.9	49.0
20年以上	64	23.4	23.4	12.5	7.8	6.3	9.4	-	-	-	-	17.2	53.1	

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表 AQ7：煎茶道に関する月額費用

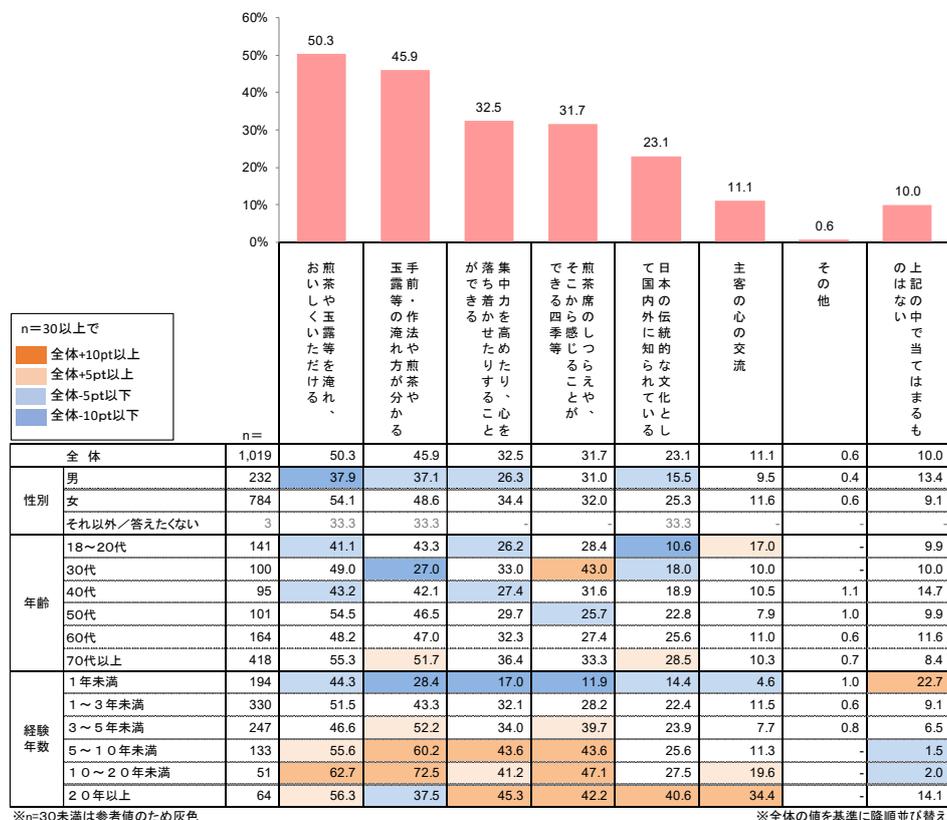
煎茶道に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」の50.3%で、次いで「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」45.9%、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」32.5%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別で見ると、男性では、女性に比べ、全ての項目で回答比率が低く、特に「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」では全体平均50.3%に対して、男性37.9%、女性54.1%と大きな差がある。

次に年齢別で見ると、18～20代で「主客の心の交流」(17.0%)の回答比率が高い一方、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」(10.6%)が特に低い回答比率となっている。30代では、「煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」(43.0%)の回答比率は高く、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」(27.0%)の回答比率が低い。なお、年代が上がると「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」の回答比率が高くなる傾向が見える。

経験年数別では、1年未満で「上記の中で当てはまるものはない」(22.7%)の回答比率が高い。一方、「煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等」、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」の3項目は、経験年数が増えるほど回答比率が上昇している。



集計表 AQ8：煎茶道に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 精神統一、色々な場面での所作に自信が持てる

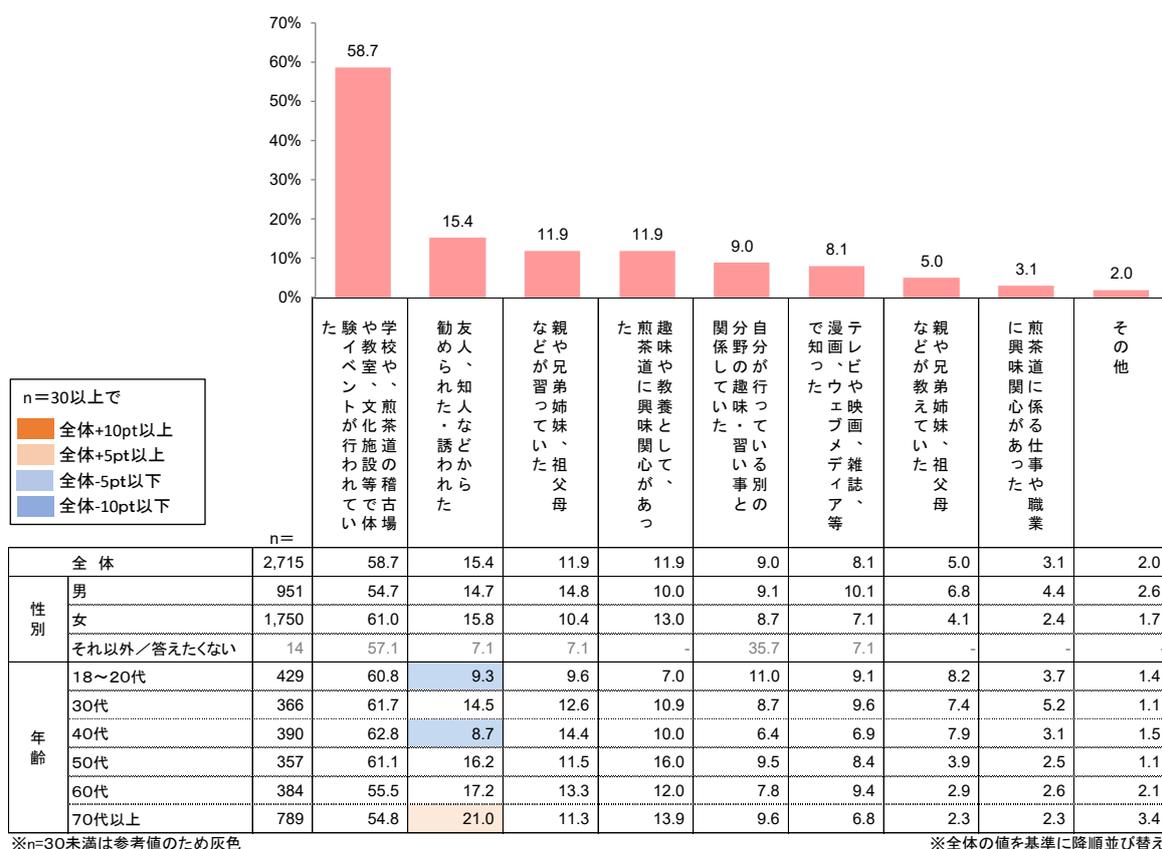
■煎茶道について「学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある」と回答した者への設問（AQ9～AQ15）

本設問では、煎茶道をイベント等で体験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会での体験をしたのか、また、どの程度煎茶道に興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

煎茶道を体験したきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」の58.7%で、次いで「友人、知人などから勧められた・誘われた」15.4%、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（ともに11.9%）と続く。

年齢別の回答比率と全体平均を比較すると、70代以上の者で「友人、知人などから勧められた・誘われた」（21.0%）の回答比率がやや高い一方、18～20代と40代の回答比率は全体平均を下回っている。また、60代以上では、「学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」の回答比率がやや低いことが分かる。



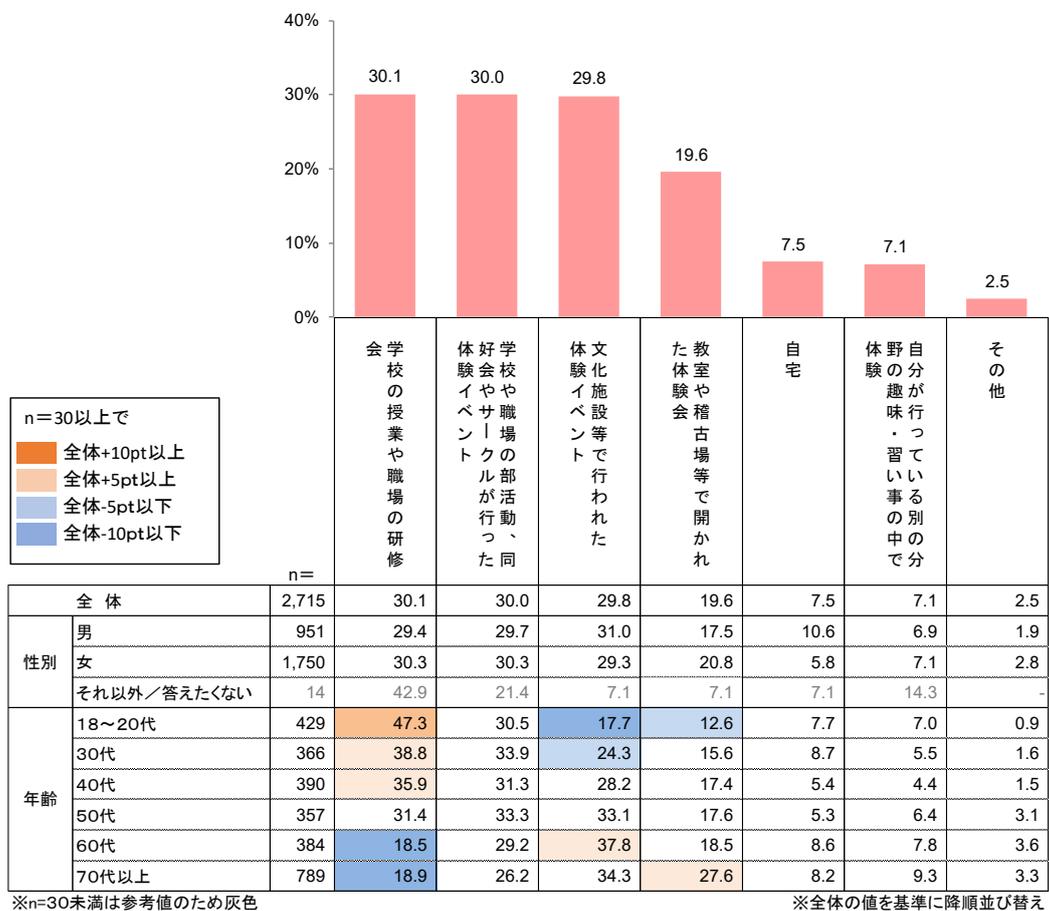
集計表 AQ9：煎茶道を体験したきっかけ

（その他の内容）職場で体験、保育園・幼稚園で習った、娘が習っていた

煎茶道を体験した場

全体平均で最も回答比率が高いのは「学校の授業や職場の研修会」の30.1%で、次いで「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」30.0%、「文化施設等で行われた体験イベント」29.8%がほぼ同率で並ぶ。

年齢別の回答比率と全体平均を比較すると、18~20代の者が「学校の授業や職場の研修会」での体験を最も多く回答しており、次に30代、40代と続いている。また、60代以上は、「学校の授業や職場の研修会」の回答比率が全体平均を大きく下回っている一方、「文化施設等で行われた体験イベント」、「教室や稽古場等で開かれた体験会」の回答比率が高くなっている。



集計表 AQ10：煎茶道を体験した場

(その他の内容) 友人宅、親戚の家、茶室、お寺

煎茶道を習いやすい状況

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所で習えたら」の42.8%で、次いで「費用が手頃だったら」41.4%、少し離れて「必要な道具等が借りられたら」28.4%と並ぶ。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「通いやすい場所で習えたら」(36.2%)、「費用が手頃だったら」(36.0%)の2項目の回答比率が低い。

次に、年齢別で見ると、70代以上で「わからない」(26.0%)の回答比率が高いほか、30～50代では、「習う時間帯を調整してもらいやすかったら」の回答比率が高くなっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

集計表 AQ11：煎茶道を習いやすい状況

(その他の内容) 気軽に楽しめる雰囲気がある、正座をしなくてもよい、観光地やイベント等

煎茶道に支払える月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは「5,000円未満」の69.6%で、次いで「5,000円以上～10,000円未満」20.4%、「10,000円以上～15,000円未満」4.3%となった。月額1万円以上支払ってもいいと回答した比率は10.0%（2,715人中272人）である。

次に男女別を見ると、男性で月額1万円以上支払ってもいいという回答比率が17.7%（951人中168人）あったのに対し、女性は5.8%（1,750人中102人）にとどまり、男女で差が見られる。

また、年齢別では、年齢が低いほど月額1万円以上支払ってもいいという回答が増える傾向がある。

													(%)	
		n=	5,000円未満	5,000円以上～10,000円未満	10,000円以上～15,000円未満	15,000円以上～20,000円未満	20,000円以上～25,000円未満	25,000円以上～30,000円未満	30,000円以上～35,000円未満	35,000円以上～40,000円未満	40,000円以上～45,000円未満	45,000円以上～50,000円未満	50,000円以上	合計
性別	全体	2,715	69.6	20.4	4.3	2.2	1.2	0.8	0.5	0.1	0.1	-	0.6	10.0
	男	951	59.7	22.6	7.9	4.2	1.9	1.4	0.7	0.3	0.2	-	1.1	17.7
	女	1,750	74.9	19.3	2.5	1.2	0.8	0.5	0.3	0.1	0.1	0.1	0.4	5.8
	それ以外／答えたくない	14	71.4	14.3	-	-	-	7.1	7.1	-	-	-	-	14.3
年齢	18～20代	429	58.5	23.1	7.0	4.2	2.3	1.2	1.4	0.2	0.5	0.2	1.4	18.4
	30代	366	63.9	18.0	7.4	3.0	2.5	2.7	0.8	0.3	-	-	1.4	18.0
	40代	390	65.9	20.3	5.4	3.8	1.5	1.3	0.5	0.5	-	-	0.8	13.8
	50代	357	72.8	19.3	4.2	1.1	1.1	0.6	0.6	-	-	-	0.3	7.8
	60代	384	75.0	20.6	2.9	0.8	0.5	0.3	-	-	-	-	-	4.4
	70代以上	789	75.9	20.5	1.8	1.3	0.1	-	-	-	0.1	-	0.3	3.5

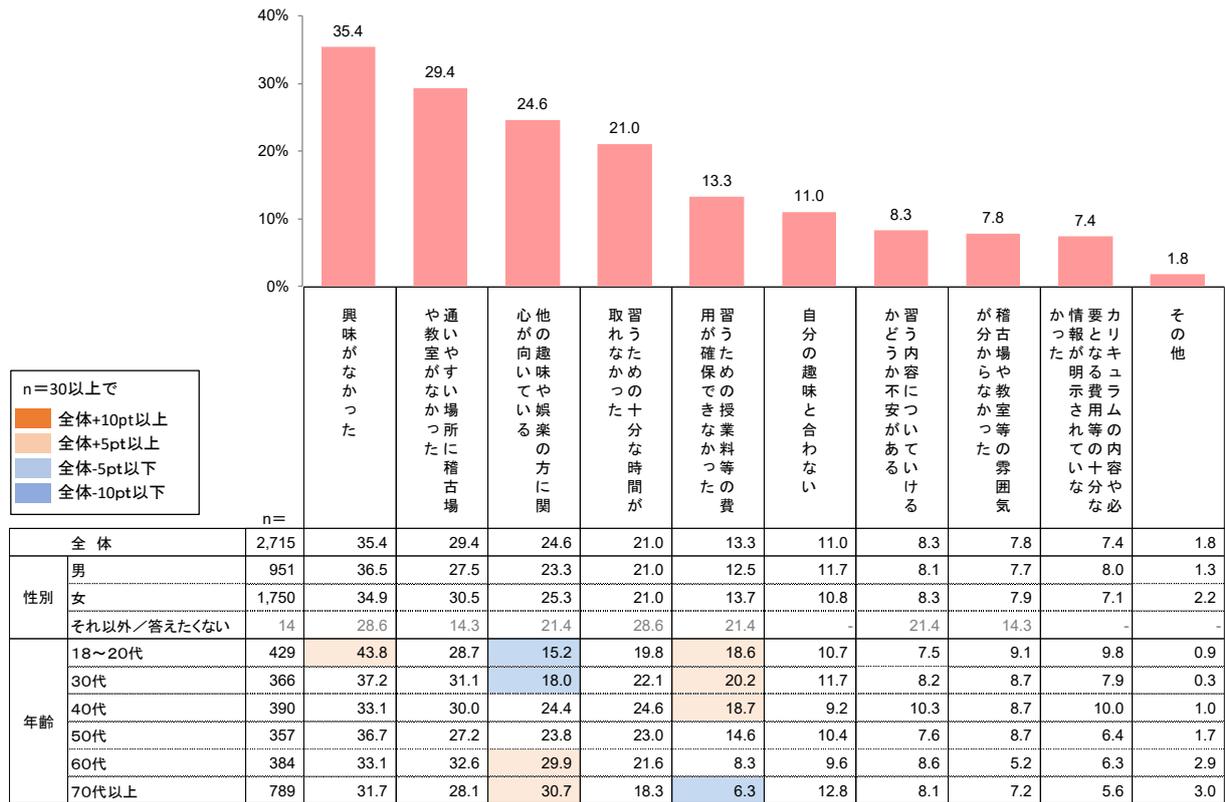
※n=30未満は参考値のため灰色

集計表 A Q12：煎茶道に支払える月額費用

煎茶道を習っていない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「興味がなかった」の35.4%で、次いで「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」29.4%、「他の趣味や娯楽の方に興味が向いている」24.6%となった。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較すると、18～40代で「習うための授業料等の費用が確保できなかった」という回答比率がやや高い。その一方で、60代以上では、「他の趣味や娯楽の方に興味が向いている」と回答する傾向が高まっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

集計表 AQ13：煎茶道を習っていない理由

(その他の内容) 正座がづらい、きっかけがなかった、習う必要性を感じなかった

煎茶道に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の伝統文化への理解を深められる」の51.3%で、次いで「煎茶やお菓子を楽しめる」43.2%、「作法、しきたりなどが複雑」39.3%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「煎茶やお菓子を楽しめる」(37.4%)、「月謝や道具等にお金がかかる」(24.6%)の2項目で回答比率が低い。

次に年齢別では、18～20代で「煎茶やお菓子を楽しめる」(54.5%)の回答比率が高い一方、「日本の伝統文化への理解を深められる」、「月謝や道具等にお金がかかる」、「暮らし、生活を豊かにしてくれる」の3項目への回答比率が低い傾向にある。また、60代以上の者では、「煎茶やお菓子を楽しめる」の回答比率が全体平均よりも低い結果となっている。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

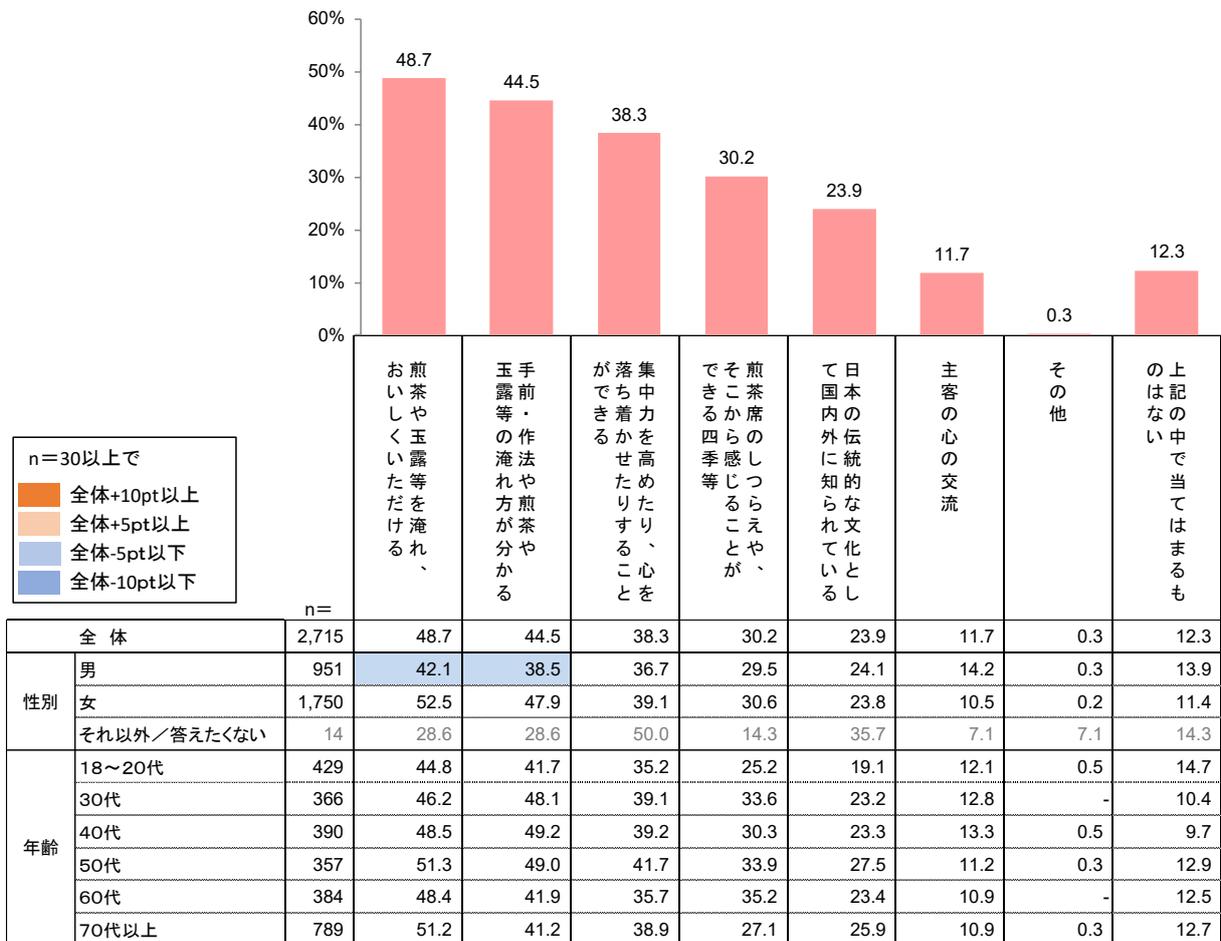
集計表 AQ14：煎茶道に対する印象やイメージ

(その他の内容) 正座をするのがつらい、精神的にゆとりができそう

煎茶道に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」の48.7%で、次いで「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」44.5%、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」38.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別の回答比率とを比較すると、男性で「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」(42.1%)、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」(38.5%)の回答比率が低い傾向が見られる。



※n=30未満は参考値のため灰色

※全体の値を基準に降順並び替え

集計表 AQ15：煎茶道に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 教養が身につく、ゆったりした時間を楽しめる、着物が着られる

■煎茶道を「今まで経験したことはない」と回答した者への設問（AQ16～AQ20）

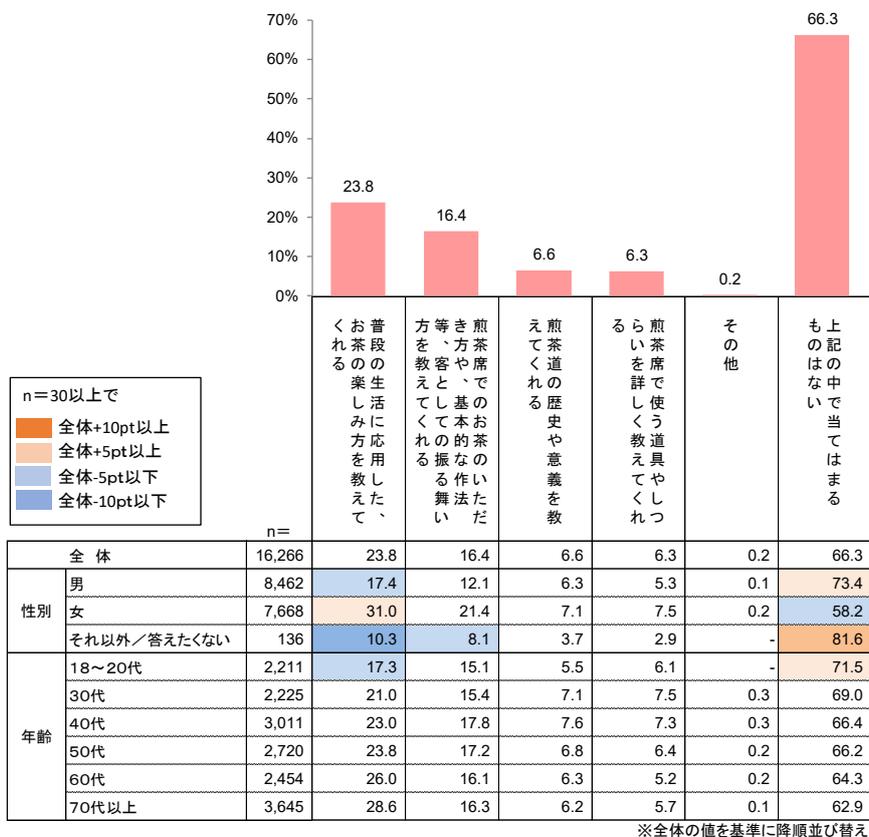
本設問では、煎茶道を経験したことがないと回答した者が、もし煎茶道を体験するならば、どのような内容や機会なら参加したいか、また、煎茶道に対してどの程度、興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

参加してみたい煎茶道の体験内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の66.3%で、次いで「普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる」23.8%、「煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる」16.4%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、「普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる」の回答比率が、男性で17.4%、女性で31.0%となっており、回答比率に大きな差が見られる。

次に年齢別で見ると、18～20代の者では「上記の中で当てはまるものはない」の回答比率が全体平均よりも高く、「普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる」の回答比率が低いことが分かる。



集計表 AQ16：参加してみたい煎茶道の体験内容

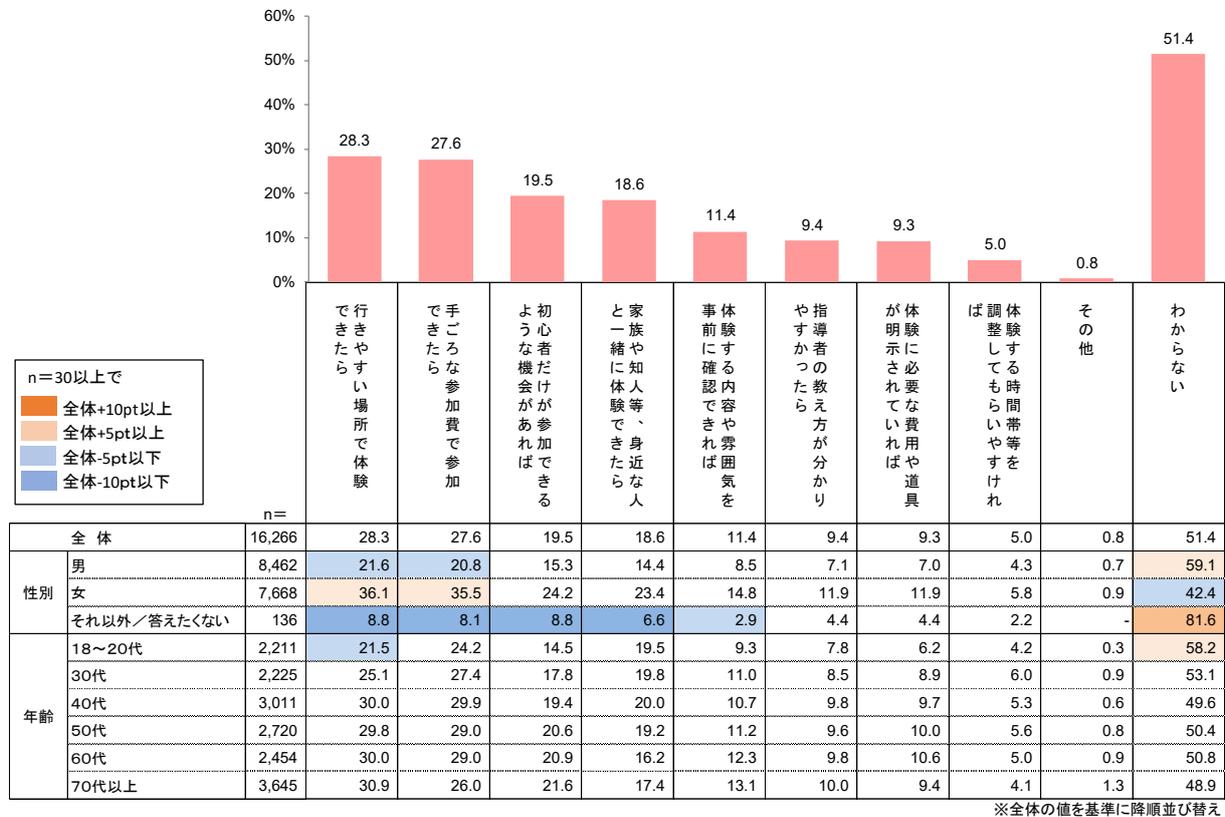
（その他の内容）正座しなくてもよいなら、完全無料、普段非公開の美術品が見られる

参加しやすい煎茶道の体験条件

全体平均で最も回答比率が高いのは「わからない」の51.4%で、次いで「行きやすい場所で体験できたら」28.3%、「手ごろな参加費で参加できたら」27.6%となる。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「わからない」(59.1%)という回答比率が高く、一方で「行きやすい場所で体験できたら」(21.6%)、「手ごろな参加費で参加できたら」(20.8%)と回答比率が低い。また、女性の場合、「行きやすい場所で体験できたら」(36.1%)、「手ごろな参加費で参加できたら」(35.5%)と、男性とは対照的に体験機会の条件に関する回答への回答比率が高い傾向が見られる。

次に年齢別では18~20代で「わからない」(58.2%)の回答比率が高く、「行きやすい場所で体験できたら」(21.5%)の回答比率は低いことが分かる。



集計表 AQ17：参加しやすい煎茶道の体験条件

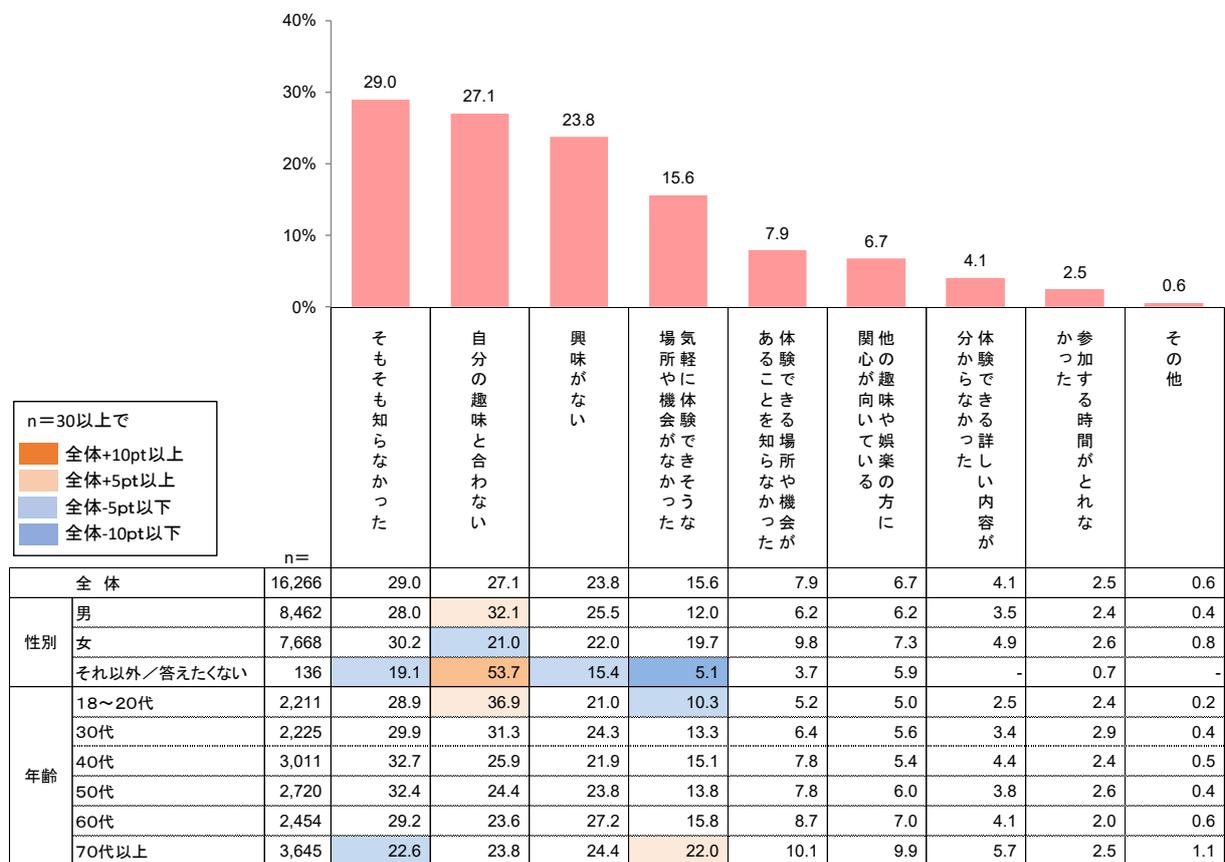
(その他の内容) 正座しなくてもよいなら、無料であれば、普段着で気軽に体験できれば

煎茶道を体験したことがない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「そもそも知らなかった」の29.0%で、次いで「自分の趣味と合わない」27.1%、「興味がない」23.8%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では男性で「自分の趣味と合わない」(32.1%)の回答比率が高い一方で、女性では同じ項目の回答比率が低い傾向が見られる。

次に年齢別では、18～20代で「自分の趣味と合わない」(36.9%)の回答比率がやや高い。70代以上では「そもそも知らなかった」(22.6%)の回答比率が低いことから、高齢者の煎茶道に対する認知度がうかがえる。また、「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」の回答比率を見ると、18～20代で10.3%、70代以上で22.0%と全体平均と比較しても大きな開きがあることが確認できる。



集計表 AQ18：煎茶道を体験したことがない理由

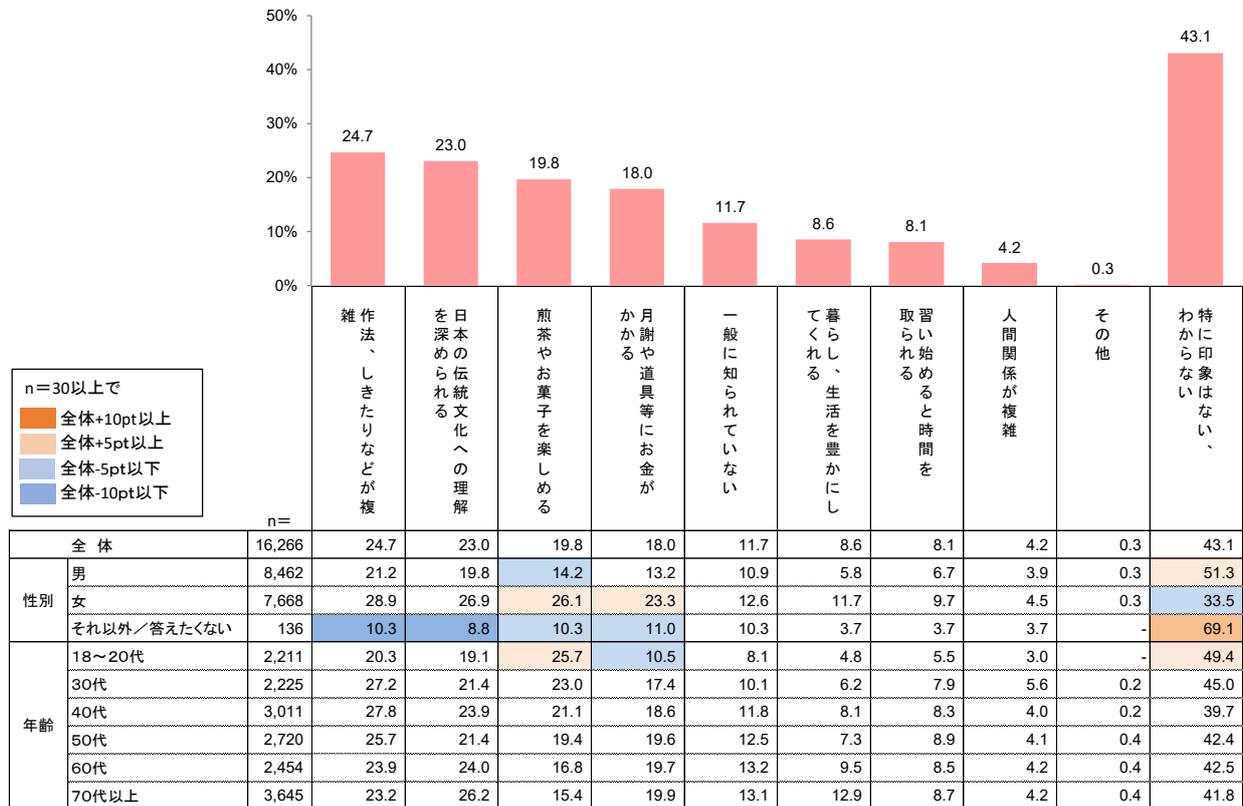
(その他の内容) 茶道を習っていたから、正座ができないから、お茶が飲めない

煎茶道に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「特に印象はない、わからない」の43.1%で、次いで「作法、しきたりなどが複雑」24.7%、「日本の伝統文化への理解を深められる」23.0%となった。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「特に印象はない、わからない」(51.3%)と回答比率が高く、「煎茶やお菓子を楽しめる」(14.2%)は低い。一方、女性の場合、「煎茶やお菓子を楽しめる」(26.1%)、「月謝や道具等にお金がかかる」(23.3%)の回答比率が高く、逆に「特に印象はない、わからない」(33.5%)は低い傾向が見られ、性別で傾向が異なっている。

次に年齢別では、18～20代で「煎茶やお菓子を楽しめる」(25.7%)、「特に印象はない、わからない」(49.4%)の回答比率が高く、「月謝や道具等にお金がかかる」(10.5%)の回答比率が低い傾向が見られる。



集計表 AQ19：煎茶道に対する印象やイメージ

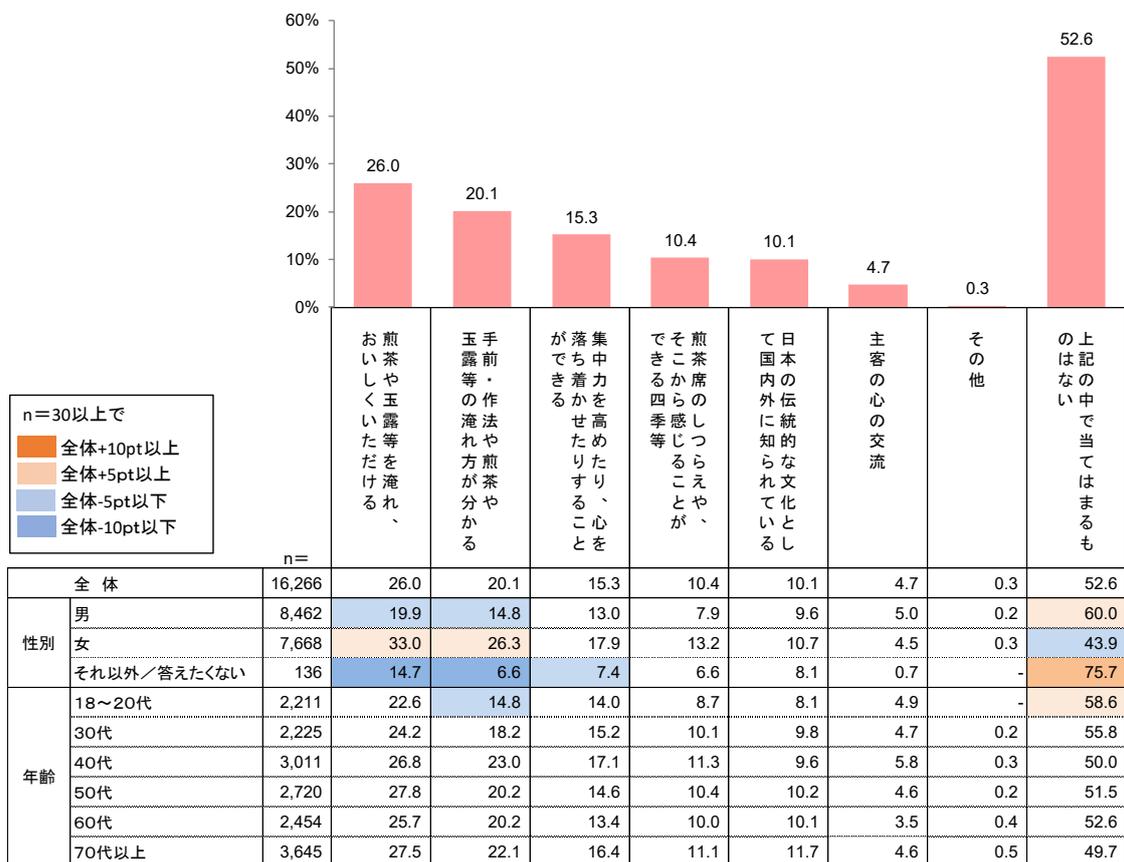
(その他の内容) 堅苦しい、敷居が高い、正座を続けるのが大変、服装に気を遣う

煎茶道に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の52.6%で、次いで「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」の26.0%、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」20.1%、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」15.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別で見ると、男性では、「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」(19.9%)、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」(14.8%)の回答比率が低く、「上記の中で当てはまるものはない」(60.0%)の回答比率が高い傾向が見られる。

次に年齢別で見ると、18~20代では、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」(14.8%)の回答比率が低く、「上記の中に当てはまるものはない」(58.6%)の回答比率が高い傾向が見られ、総じて、煎茶道の魅力が伝わっていない可能性がある。



集計表 AQ20：煎茶道に関する興味関心や魅力

(その他の内容) 美味しいお菓子が食べられる、鑑賞する書や絵画等の情報、美しい所作が身につく

②調査結果に基づく分析と考察

本節では、煎茶道の振興施策の検討を主眼として、前掲の集計結果に加えてクロス集計等も行い、これらの結果について分析を行う。

煎茶道に関して「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」、それぞれの回答者にどのような特徴が見られるのかを分析するため、「居住地」、「職業」、「同居家族」、「世帯年収」、「子供の頃の習い事」等の設問や設問間とのクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

回答者の特性や傾向について

■居住地、職業、同居家族、世帯年収とのクロス集計結果

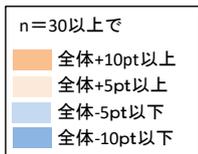
煎茶道の経験・体験の有無と居住地とのクロス集計の結果、北海道、東北、沖縄では、「未経験」の比率がやや高い傾向が見られる。

次に職業とのクロス集計の結果からは、「主婦・主夫」では「未経験」の回答比率がやや低い。その一方で、「学生」では「主婦・主夫」とは対照的に「参加体験あり」が全体平均よりやや高いことが分かる。なお、世帯年収とのクロス集計の結果としては、「1,000万円以上」で「経験あり」の回答比率がやや高いことが分かる。

以上のとおり、居住地、職業、同居家族、世帯年収のクロス集計からは、顕著な傾向や特徴等は見られなかった。

居住地×煎茶道の経験の有無

		n=	FQ フィルタリング・パート (%)		
			経験あり 「層」	参加体験あり 「層」	未経験 「層」
全体		20,000	5.1	13.6	81.3
居住地	北海道	852	3.6	9.9	86.5
	東北	1,385	4.0	12.4	83.6
	関東	7,422	5.3	13.7	81.0
	北陸	816	5.1	12.6	82.2
	東海(中部)	2,349	5.6	13.9	80.5
	近畿	3,247	5.5	13.7	80.8
	中国	1,140	5.3	14.0	80.7
	四国	584	4.3	16.3	79.5
	九州	1,987	4.8	14.6	80.6
	沖縄	218	1.4	11.5	87.2



職業・同居家族・昨年度の世帯年収×煎茶道の経験の有無

(%)

		FQ フィルタリング・パート			
		「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層	
		n=			
n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下					
職業	正規の職員・従業員	6,411	4.5	12.6	82.9
	非正規の職員・従業員	2,803	3.7	14.3	81.9
	自営業主・自由業	1,239	3.3	14.8	81.9
	家族従業者	135	6.7	15.6	77.8
	主婦・主夫	3,987	9.7	17.9	72.4
	学生	512	3.1	19.9	77.0
	リタイア、無職	4,141	3.5	10.2	86.2
	その他	772	3.8	7.6	88.6
同居家族	ひとり暮らし	4,145	5.8	12.0	82.2
	核家族	13,277	5.0	14.2	80.8
	三世代家族	1,179	5.7	16.2	78.1
	上記以外で同居している人がいる	1,399	3.3	10.5	86.2
昨年度の世帯年収	100万円未満	991	4.8	10.2	85.0
	100万円以上～200万円未満	1,325	6.5	12.3	81.2
	200万円以上～300万円未満	2,030	4.9	13.7	81.4
	300万円以上～400万円未満	2,367	5.3	14.2	80.5
	400万円以上～500万円未満	1,937	5.2	13.8	81.0
	500万円以上～600万円未満	1,457	5.2	13.4	81.4
	600万円以上～700万円未満	1,096	4.9	15.4	79.7
	700万円以上～800万円未満	1,024	4.2	13.5	82.3
	800万円以上～900万円未満	702	6.8	17.7	75.5
	900万円以上～1,000万円未満	653	5.2	15.5	79.3
	1,000万円以上	1,525	7.0	17.4	75.5
	分からない	4,893	4.0	11.8	84.2

■子供の頃の習い事とのクロス集計結果

次に、煎茶道の経験・体験の有無についての回答と、「子供の頃の習い事」に関する設問への回答とのクロス集計の結果を示す。

クロス集計を行った結果、「経験あり」と回答した者で、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」、「囲碁や将棋」、「バレエやダンス」、「美術」の順に高い回答比率を示しているほか、「参加体験あり」と回答した者でも近似する傾向が見られ、多くの習い事の項目での回答比率が高い。

子供の頃の習い事×煎茶道の経験の有無

(%)

	n=	FQ フィルタリング・パート		
		「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全体	20,000	5.1	13.6	81.3
楽器演奏(ピアノやバイオリンなど)や歌唱(コーラスや声楽など)	4,615	9.5	20.8	69.6
バレエやダンス(バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど)	755	21.2	25.2	53.6
美術(絵画や版画、彫刻、工芸など)	939	16.4	25.6	58.0
伝統芸能や茶道・華道等の芸事	743	28.8	24.5	46.7
囲碁や将棋	221	25.3	29.4	45.2
書道・習字・ペン字、そろばん	8,121	7.1	17.9	74.9
スポーツ・武道	3,661	5.4	18.9	75.7
その他	449	4.5	24.5	71.0
していない	7,852	1.9	6.4	91.7

n=30以上で

- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

■スポーツや趣味、娯楽等の活動とのクロス集計結果

次に、スポーツや趣味、娯楽等（以下、趣味・娯楽等）の活動の内容や、これらの活動に費やす時間やお金に関する回答結果とのクロス集計結果と、そこから見ることで見られる特徴や傾向を示す。

趣味・娯楽等として行っている活動内容のクロス集計結果からは、これらの活動を「特に何もしていない」と回答した者が、全体平均の回答比率 17.4%に対し、経験ありの回答者で 7.6%、参加体験ありの回答者で 5.7%と全体平均よりも低く、経験あり・参加体験ありの回答者ともに、趣味・娯楽等と積極的な関わりを持っていることがうかがえる。

趣味・娯楽等の活動内容の傾向として、経験ありと回答した者は、「お茶」(10.2%)、「お花」(8.9%)、「書道」(7.9%)、「邦楽、民謡」(3.4%)、「おどり(日舞など)」(2.4%)と全体平均を上回る回答比率となっている。

また、参加体験ありと回答した者は、「特に何もしていない」が 5.7%と全体平均を下回っているのを除き、全ての種目で、全体平均以上か平均並の回答比率となっており、分野に関わらず趣味・娯楽の活動を幅広く行っていることが推察できる。日本の伝統的な文化に関しても全体平均の回答比率を上回っているものの、煎茶道を経験している者と比較した場合はいずれも回答比率が下回っている。このことから、経験した者の日本の伝統的な文化に係る習い事の経験率が高いことが分かる。

次に、1ヶ月に使える趣味・娯楽等にかかる費用や活動する時間帯、活動に費やす時間とのクロス集計結果を示す。

まず、趣味・娯楽等にかかる費用については、経験ありと回答した者については、5,000円未満の回答比率が低く、それ以外の項目の回答比率は全体平均をほぼ上回っていることが分かる。また、平均月2万円以上支出している割合は 18.7% (942人中176人)と、「参加体験あり」と回答した者の 13.4% (2,561人中344人)、「未経験」と回答した者の 10.5% (13,024人中1,367人)に比べ、上回っている。

趣味・娯楽等の活動を行う時間帯を見ると、経験ありと回答した者は、「平日午前」(41.9%)、「平日午後」(38.9%)と、平日日中の活動率が高いことが分かる。

趣味・娯楽等に費やす月平均の時間を見ると、「1時間未満」という回答比率が全体平均で22.9%であるのに対し、「経験あり」と回答した者では18.3%にとどまっている。また、「2時間以上～3時間未満」と「3時間以上～4時間未満」の2項目で全体平均をやや上回る回答比率であることが分かる。

煎茶道の経験の有無×趣味・娯楽等の活動状況

		共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況 (%)													
		信 動 画 鑑 賞 (レ ン タ ル 、 配 信 を 含 む)	邦 楽 、 民 謡	な ン だ 音 楽 鑑 賞 (配 信 、 C D 、 F M)	書 道	お 茶	お 花	お ど り (日 舞 な ど)	除 読 書 (仕 事 、 勉 強 な ど を 娯 楽 と し て の)	の テ レ ビ ゲ ー ム (家 庭 で)	オ ン ラ イ ン ゲ ー ム な ど の	中 央 競 馬	ル タ 複 合 シ ョ ッ プ イ ン タ ー ネット セ ン タ ー	特 に 何 も し て い な い	
全体	n=20,000	13.6	1.5	17.3	1.7	1.6	1.8	0.4	16.1	7.9	5.3	4.7	15.7	17.4	
「経験あり」層	1,019	10.3	3.4	14.2	7.9	10.2	8.9	2.4	15.6	6.2	5.1	4.3	15.3	7.6	
「参加体験あり」層	2,715	17.5	2.3	21.8	3.8	3.4	4.0	0.6	23.5	10.5	7.3	5.3	24.4	5.7	
「未経験」層	16,266	13.1	1.2	16.7	1.0	0.8	1.0	0.2	14.9	7.6	4.9	4.6	14.3	19.9	

※共通設問1は、分析で取り上げた選択肢のみ抜粋して掲載している。(以下同様)

煎茶道の経験の有無×趣味・娯楽等に1ヶ月に使える費用

		共通設問2 1ヶ月に使える趣味・余暇費用 (%)												
		5,000円未満	15,000円未満	11,000円未満	21,000円未満	22,000円未満	32,000円未満	33,000円未満	43,000円未満	44,000円未満	54,000円未満	50円以上	合計	
全体	n=16,527	49.5	22.9	10.2	5.9	3.1	3.0	1.4	0.6	0.4	0.6	2.3	11.4	
「経験あり」層	942	35.4	23.1	14.1	8.7	5.7	4.5	2.2	1.3	1.0	0.6	3.4	18.7	
「参加体験あり」層	2,561	41.7	26.0	12.3	6.6	4.0	3.2	2.0	0.9	0.6	0.6	2.2	13.4	
「未経験」層	13,024	52.1	22.3	9.6	5.6	2.7	2.8	1.2	0.5	0.3	0.6	2.3	10.5	

煎茶道の経験の有無×趣味・娯楽等を行う時間帯

		共通設問3 1ヶ月に使える趣味・余暇時間帯 (%)							
		平日午前	平日午後	平日夕方	平日夜間	休日午前	休日午後	休日夕方	休日夜間
全体	n=16,527	30.6	30.1	15.8	18.8	34.9	43.7	21.2	15.5
「経験あり」層	942	41.9	38.9	17.3	13.6	25.6	27.5	11.9	6.2
「参加体験あり」層	2,561	32.3	31.7	17.4	19.7	36.4	41.2	21.0	14.1
「未経験」層	13,024	29.5	29.1	15.4	19.0	35.3	45.4	21.9	16.5

煎茶道の経験の有無×趣味・娯楽等に費やす時間

(%)

n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下		共通設問4 趣味・余暇活動を行う時間										
		1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上 6時間未満	6時間以上 7時間未満	7時間以上 8時間未満	8時間以上 9時間未満	9時間以上 10時間未満	10時間以上
全体	n=16,527	22.9	23.5	13.7	7.0	4.5	4.1	1.7	1.9	0.9	1.3	18.5
「経験あり」層	942	18.3	22.8	16.9	9.3	5.3	4.4	2.7	2.5	1.1	1.6	15.2
「参加体験あり」層	2,561	18.1	23.9	14.4	8.4	4.5	5.1	2.6	2.3	0.8	1.6	18.3
「未経験」層	13,024	24.2	23.4	13.3	6.5	4.5	3.9	1.5	1.8	0.9	1.3	18.8

■消費行動に関する意識や価値観に関するクロス集計結果

消費行動に関する意識や価値観の項目と煎茶道の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者では、「リスクはできるだけ避けたい」と「上記であてはまるものはない」を除いた全ての意見で回答比率が全体平均を上回っており、「自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい」(35.3%)と「集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ」(11.8%)の回答比率では、「参加体験あり」と回答した者を押さえ、最も高くなっている。これに対し「参加体験あり」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」を除いた全項目で平均を上回るだけでなく、「自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい」「集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ」の2項目を除く項目で回答比率が高い。また、「流行っていないけれども、自分が面白いと思ったものは試してみたい」(36.8%)、「家族や友人・知人の役に立ちたい」(34.7%)、「困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい」(29.9%)、「その時・その場でしか得られない体験をしたい」(23.3%)の4項目では全体平均の回答比率を10%内外上回っている。

一方、「未経験」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」(25.2%)以外の全項目で回答比率が平均を下回っている。

煎茶道の経験の有無×消費行動に対する価値観

(%)

n=30以上で 全体+10pt以上 全体+5pt以上 全体-5pt以下 全体-10pt以下		共通設問5 消費行動に対する価値観														
		たり自分 の考えを 主張する より、周 りとの和 を尊重し たい	ご自分 の考えを 主張する より、周 りとの和 を尊重し たい	たたく チャンス を感じた ら逃し たい												
全体	n=20,000	25.6	22.6	20.2	41.9	24.9	10.6	19.6	2.4	5.4	13.6	3.9	26.8	3.1	3.1	22.0
「経験あり」層	1,019	35.3	27.1	26.2	39.5	31.4	17.2	26.7	3.8	11.8	16.7	5.7	27.8	5.3	3.2	8.8
「参加体験あり」層	2,715	31.6	30.9	27.4	47.6	34.7	18.2	29.9	3.5	9.4	23.3	6.7	36.8	5.5	4.9	7.3
「未経験」層	16,266	24.0	21.0	18.6	41.1	22.8	8.9	17.4	2.2	4.3	11.8	3.4	25.1	2.6	2.8	25.2

■ 普段接するメディアとのクロス集計結果

「経験あり」と回答した者では、「テレビ (NHK)」、「CATV や衛星放送」、「ラジオ」、「新聞」、「雑誌・タウン誌」、「紙の書籍」で回答比率が全体平均を5%以上上回る。一方、「テレビ (民放)」、「インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど」、「動画投稿サイト」、「SNS」、「紙のマンガ/マンガ雑誌」、「電子版のマンガ」、「有料動画サイト」では回答比率が全体平均を下回っており、民放のテレビを除く旧来のメディアや紙のメディアへの接触が高い傾向が見られる。

一方、「参加体験あり」と回答した者では、全てのメディアにおいて全体平均より回答比率が高い。

「未経験」と回答した者は、逆に、全てのメディアにおいて回答比率が低く、「上記のメディアはあまり見ていない」(12.5%)のみ全体の回答比率を上回るという結果になった。

煎茶道の経験の有無×接触メディア

		共通設問6 接触メディア (%)																	
		Bテレビ (民放の地上波)	波・Bテレビ (NHKの地上)	CATVや衛星放送のチャンネル	ラジオ (インターネットを除く)	新聞 (電子版含む)	雑誌・タウン誌 (インターネット経由を除く)	むなど (アプリ経由を含む)	インターネットのウェブサイト	T動画投稿サイト (YouTubeなど)	o ar S og r a l n m o t e a c e s e b t	SNS (LINE, Twitter, Facebook, etc.)	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ/マンガ雑誌	電子版のマンガ	x, H u o l u n a d o	有料動画サイト (Amazon, etc.)	上記のメディアはあまり見ていない
n=30以上で																			
全体		20,000	69.5	41.7	10.2	14.3	28.5	7.5	46.1	33.7	28.5	20.4	6.0	6.8	6.4	6.4	11.9	10.8	
「経験あり」層		1,019	69.2	51.3	16.2	20.9	38.4	14.6	42.6	24.9	23.1	26.2	6.1	5.6	4.0	10.5	4.9		
「参加体験あり」層		2,715	72.9	52.0	14.8	18.6	36.6	14.2	52.2	39.5	35.9	29.4	8.6	8.8	8.6	16.1	2.8		
「未経験」層		16,266	69.0	39.4	9.0	13.1	26.5	6.0	45.3	33.2	27.6	18.5	5.5	6.6	6.1	11.3	12.5		

以上のクロス集計結果と、「①単純集計の結果について」で示した回答者の年齢・性別とのクロス集計の結果も踏まえ、煎茶道の「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者の特徴や傾向は以下のとおりになる。

1) 煎茶道を経験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも経験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。年齢別で見た場合、70代以上が最も多く、次いで60代、18~20代と続く。

次に、経験者は、子供の頃の習い事として伝統的な文化に係る分野を習っていたと回答している者が多く、また、趣味・娯楽等の活動に積極性があり尚かつ伝統的な文化に係る趣味への嗜好性の高さがうかがえる。消費行動への意識については、周りとの協調や一体感を大切に、身近な人や社会の役に立ちたいという価値観を持っている者が全体平均と比べると多い傾向が見え、普段のメディア接触については、テレビやラジオ、新聞等のメディア媒体への接触率が高い傾向にあるといえる。

2) 煎茶道を参加体験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも参加体験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。また、年齢別で見た場合、70代以上が最も多く、次いで18~20代、30代と続く。

次に、子供の頃の習い事の経験があるとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して積極的な傾向にあることがうかがえる。消費行動への意識については、自分の考えに

基づいた判断を重視し、リスクは避けつつも、面白いものを試したいという嗜好性が特徴として表れている。また、普段のメディア接触については、電子書籍や有料動画等のメディア媒体との接触率が高い傾向にある。

3) 煎茶道を未経験と回答した者の傾向

男女別、年齢別等では顕著な特徴は見られなかった。

子供の頃の習い事の経験については、経験がないとの回答比率が高い傾向にあり、趣味・娯楽等の活動に対して、特に何もしていないという回答比率が全体平均を上回っており、積極的に趣味・娯楽等を行うことがない回答者が多い傾向にある。消費行動への意識については、当てはまるものはないという回答比率が全体平均を上回っており、特徴的な傾向は見られない。また、メディア接触については、民放のテレビやウェブサイトとの接触率が高い傾向にあるといえる。

なお、回答者の居住地や職業、同居家族の構成、世帯年収に関する設問とのクロス集計を行ったが、特徴的な傾向は見られなかった。

未経験者の傾向と特徴

次に、上記の属性分析を踏まえ、「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者ごとに設けた設問の回答結果についてクロス集計を行い、回答者の特徴について更なる分析を行う。

まず、未経験と回答している者の設問の分析を行う。上述の回答者属性に関する分析では、未経験と回答した者については際立った特徴や傾向は見いだせなかった。加えて、今後の振興施策を考える上で、未経験と回答した者が、なぜ煎茶道を経験してこなかったのか、また、煎茶道を経験することに対してどのような意識を持っているのか、どのような体験方法や周知の実施をすれば参加体験等に繋げていく可能性を見いだすことができるのか、その検討のために分析を行う必要がある。

■未経験者の体験機会への参加意向

未経験と回答した者のうち、煎茶道を体験してみたいという意向を持つ回答者、体験意向がない回答者にはどのような特徴があるのか。趣味・娯楽等の活動内容、消費意識、メディア接触の設問とAQ16「参加してみたい煎茶道の体験内容」の回答結果のクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

AQ16では、体験内容として設定した選択肢には当てはまるものはないと66.3%が回答しており、残りの33.7%は、体験内容によっては煎茶道の体験に参加してみたいという意向を持っていると推察される。

まず、煎茶道の体験に参加してみたい意向を示した回答者について、クロス集計結果からその特徴を確認する。趣味・娯楽等の活動全般に積極性があり、消費行動への明確な意見や嗜好性を持ち、メディア接触も多い傾向が見られる。また、趣味・娯楽の項目への回答比率を見ると、日本の伝統的な文化（「邦楽、民謡」「お茶」「お花」「書道」「おどり（日舞など）」）への参加率は、全体平均に比べてやや高い数値を示しているが、煎茶道の経験があると回答した者と比べると大きな差とはいえない。

次に、煎茶道の参加体験の意向がない者について、その特徴を確認する。AQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者の27.2%は、趣味・娯楽等の活動について「特に何もしていない」と回答しており、AQ16でいずれかの体験内容の選択肢を回答した人と顕著な差が見られる。また、消費行動に関する設問でも、メディア接触についても、当てはまらない、特にしていないという選択肢を選ぶ割合が高い。このように、煎茶道の参加体験の意向がない者の特徴として、趣味・娯楽活動やメディアへの接触に必ずしも積極的とはいえず、消費についての意識・意見をあまり明確に持っていない傾向がうかがえる。

■参加したい体験機会別に見た参加条件

次に、煎茶道は未経験と回答した者が体験したい内容、また、体験条件にはどのような特徴があるのかについて、AQ16「参加してみたい煎茶道の体験内容」の各種の参加体験とAQ17「参加しやすい煎茶道の体験条件」の回答結果をクロス集計し、未経験者の考える体験しやすい内容と条件の傾向について分析を行う。

まず、AQ16で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者の75.2%が、AQ17で「わからない」と回答している。一方、実際に希望する体験機会がある者では、「わからない」という回答は極めて少ない。

具体的な体験内容を選択した者の参加条件への回答比率は、全体平均より非常に高い。体験条件の選択肢の回答比率を見ると、「行きやすい場所で体験できたら」、「手ごろな参加費で参加できたら」の2項目は回答比率が60%台後半から70%台と高く、特に重視されている傾向が分かる。

そのほか、「煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる」という体験内容を希望する者は、必要な費用や道具、体験する時間帯等の調整、初心者だけの参加機会、体験する内容や雰囲気の前確認、指導者の教え方の分かりやすさと言った選択肢の回答比率が他の回答比率に比べて高い傾向にあり、体験する際の内容や条件について気にかけている傾向が見られる。

以上のように、煎茶道を未経験であると回答した者は、AQ16で具体的な体験内容を答えた者の多くは、AQ17の体験を行う際の条件についても具体的な条件を選択していることから、体験内容及び条件が明確な方が未経験者への参加体験を促しやすいものと推察できる。

参加してみたい煎茶道の体験内容×参加しやすい煎茶道の体験条件

		AQ17 参加しやすい煎茶道体験の条件 (%)										
		と家族一緒に体験できるとき	行きやすい場所	きたりな参加費	手ごろな参加費	が体験に必要ない費用	し体験もする時間や帯け等を調整	よ初心者だけが参加できる	事前確認内容や雰囲気	や指導者の教え方が分かり	その他	わからない
n=30以上で												
全体+10pt以上												
全体+5pt以上												
全体-5pt以下												
全体-10pt以下												
n=												
全体	16,266	18.6	28.3	27.6	9.3	5.0	19.5	11.4	9.4	0.8	51.4	
煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる	2,671	47.2	73.7	73.0	28.9	15.1	47.4	29.8	25.5	0.9	1.8	
煎茶道の歴史や意義を教えてくれる	1,076	44.2	78.1	77.0	35.4	22.5	48.9	36.9	32.4	1.1	1.9	
煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる	1,030	42.9	76.8	77.7	39.1	24.7	53.2	38.9	35.6	1.5	1.7	
普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる	3,868	40.0	64.1	63.1	22.3	12.4	45.3	29.5	23.6	0.7	5.2	
その他	30	26.7	56.7	43.3	26.7	26.7	30.0	10.0	10.0	56.7	13.3	
上記の中で当てはまるものはない	10,785	8.0	10.8	10.5	3.2	1.6	8.1	4.2	3.6	0.8	75.2	

■これまで煎茶道を経験してこなかった理由と参加したい体験機会

煎茶道を未経験と回答した者には、これまでに煎茶道を体験してこなかった理由（AQ18）に関する問いを設けている。この設問を設けた理由として、未経験者のうちには、体験機会が身近になかった、特定の事情で体験することができなかつた者や、そもそも全く興味がなかつた等、回答者によって個々の事情や理由があることを想定したためである。

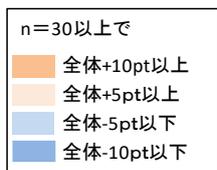
既に、回答者の中には興味関心がなかつたわけではなく、体験できなかつた事情や理由があると回答した者がいることがAQ18の回答結果から判明しているが、体験できなかつた事情や理由があると回答した者はどのような体験機会があれば参加しやすいと考えているのか。AQ18の回答と参加してみたい体験内容を問う設問（AQ16）のクロス集計を行い、その傾向を分析する。

まず、煎茶道をこれまで体験してこなかった理由として「そもそも知らなかつた」が回答比率として最も高く（29.0%）、次点で「自分の趣味と合わない」（27.1%）、「興味がない」（23.8%）と続いている。AQ16とのクロス集計の結果を見ると、AQ16で「上記の中で当てはまるものがない」と回答した者では、AQ18で「自分の趣味と合わない」（37.6%）、「興味がない」（28.1%）の回答比率が全体平均よりも高い。

一方、具体的な体験内容についての選択肢を回答した者は、「そもそも知らなかつた」が全体平均を越える30%台、逆に「興味がない」が10%台、「自分の趣味と合わない」が一桁台と、全体平均を下回っていることから、煎茶道自体を知らなかつた者の中に、機会があれば参加体験を希望する者が一定数いると推察できる。また、AQ18で「気軽に体験できそうな場所や機会がなかつた」、「体験できる場所や機会があることを知らなかつた」の回答比率が全体平均を大きく上回っており、体験機会そのものが身近になかつた場合や、体験機会があつても体験機会を希望する者に情報として届いていなかつたと回答結果から推察することができる。

参加してみたい煎茶道の体験内容×煎茶道を体験したことがない理由

	n=	AQ18 煎茶道を体験したことがない理由 (%)								
		そもそも知らなかつた	興味がない	所気や軽に機会が体験できなかつたような場	か参加する時間がとれない	あ体験するときを知らなかつた機会があつた	分体験できなかった詳しい内容が	心他の向いてや興味のある方に関	自分の趣味と合わない	その他
全体	16,266	29.0	23.8	15.6	2.5	7.9	4.1	6.7	27.1	0.6
煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる	2,671	35.0	12.1	41.3	5.3	21.7	10.4	11.4	4.3	0.8
煎茶道の歴史や意義を教えてくれる	1,076	35.6	10.8	41.5	8.1	25.7	15.4	12.5	3.5	0.5
煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる	1,030	32.0	11.3	43.4	8.7	27.7	15.6	13.1	5.3	0.4
普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる	3,868	36.3	15.0	32.1	4.6	18.2	9.5	13.0	6.4	0.8
その他	30	33.3	23.3	20.0	3.3	20.0	6.7	10.0	13.3	20.0
上記の中で当てはまるものはない	10,785	25.8	28.1	6.6	1.4	3.0	1.8	4.1	37.6	0.4



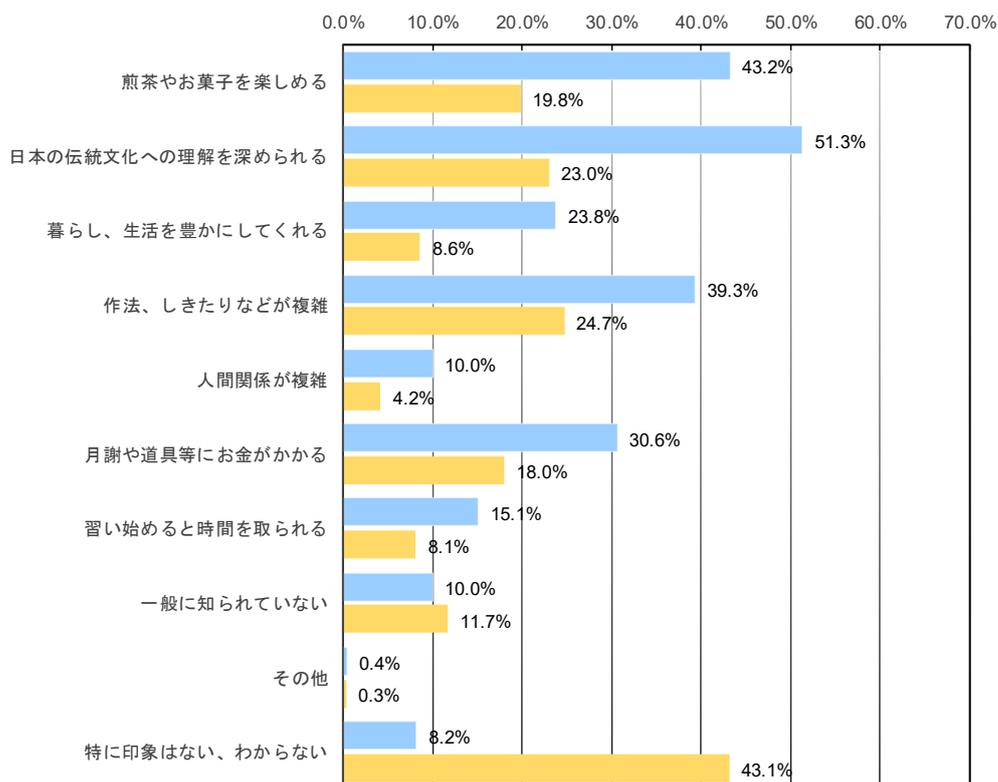
■「未経験」層と「参加体験あり」層の煎茶道へのイメージの違い

煎茶道を未経験と回答した者が持つ煎茶道のイメージについてA Q19の結果では、「特に印象はない、わからない」(43.1%)、「作法、しきたりなどが複雑」(24.7%)、「日本の伝統文化への理解を深められる」(23.0%)と、そもそもイメージや印象を持っていない者が最も多く、また、複雑なもの、伝統的な文化であると印象を持たれている。これは、回答者が煎茶道の未経験者であることから、具体的な内容や体験を経た上での印象を持っていないためと考えられる。

下のグラフは、煎茶道の参加体験をしたことがある者のイメージ(A Q14)と未経験者のイメージ(A Q19)の回答結果を比較したものである。未経験者で最も回答比率が高かった「特に印象はない、わからない」の回答比率は参加体験を行うことで大幅に減っている一方、「日本の伝統文化への理解を深められる」、「作法、しきたりなどが複雑」の回答比率が未経験と比べて、参加体験した者の方が回答比率は高くなっており、他の選択肢についてもほぼ同様のことが指摘できる。

煎茶道の参加体験をすることで、煎茶道が持つ魅力はもちろんのこと、作法等の複雑さや時間や費用がかかることも明確なイメージを描けるようになってきていることが分かる。

未経験者と参加体験者の煎茶道に対する印象やイメージの違い



■学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある (N=2,715)

■今まで経験したことはない (N=16,266)

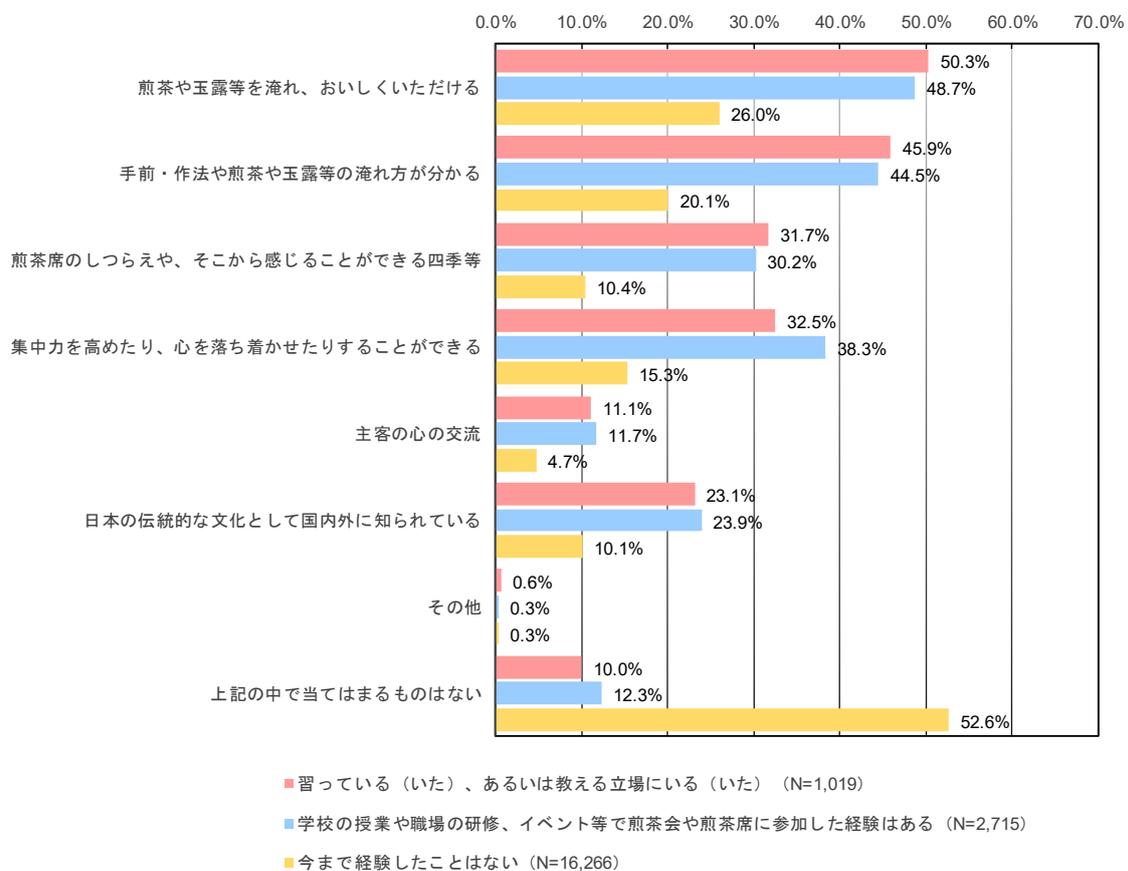
■「未経験」層と「参加体験あり」層、「経験あり」層の煎茶道の魅力についての評価の違い

未経験者が煎茶道に対する印象やイメージを具体的に描けないように、煎茶道の魅力に対する設問（AQ8、AQ15、AQ20）にも同様の傾向が見られる。

下のグラフを見ても分かるように、煎茶道未経験者の回答者の半数が、「上記の中で当てはまるものはない」（52.6%）と回答し、経験者と参加体験者の場合の回答比率と比較しても大きな差があることから、イメージや印象と同じく実際に体験することの重要性がうかがえる。

また、経験者、参加体験者、未経験者ともに、「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」、「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」、「集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる」の順で回答比率が高いことが分かる。

各回答者における煎茶道に対する興味関心や魅力の違い



上記のクロス集計の結果から、煎茶道を未体験と回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 煎茶道に興味関心がある者の属性に関する傾向と特徴

煎茶道を未経験であると回答した者のうち、参加体験の意向を示さない者が66.3%いる一方、33.7%が体験内容に関する選択肢をいずれか選択しており、未経験者の中でも機会があれば参加したという意向を持つ者がいる。

これら参加意向を示す者は、趣味・娯楽等の活動全般に対して積極性を持ち、消費行動への

明確な意見があり、メディア接触も多い傾向にある。ただし、煎茶道の経験者と比べた場合、茶道や華道、邦楽などの日本の伝統的な文化への参加率はあまり高くないことから、趣味・娯楽の活動として伝統的な文化への接触はやや低い傾向にある。

2) 未経験者が考える参加しやすい体験の条件と内容についての傾向と特徴

AQ16、AQ17のクロス集計の結果から、未経験者のうち、参加体験をしたいとの意向を示した者の60～70%が、行きやすい場所と手頃な参加費用の2点を参加体験の条件としてとりわけ重視している傾向が見えてくる。また、AQ16とAQ18とのクロス集計の結果からは、体験できなかった事情・理由として「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」「そもそも知らなかった」と回答し、参加体験の意向を持つ者の多くが、煎茶道を知る機会や、体験する機会を得ることができなかったことが分かる。

3) 煎茶道の印象や魅力に関する傾向と特徴

未経験者の場合、煎茶道に対する印象や魅力について、未経験であるが故に、具体的なイメージや魅力は分からないという当然の結果が導かれた。その点を踏まえて、経験者や参加体験者との印象や魅力への回答の差を見ると、参加体験や経験を重ねることで、具体的な印象やイメージ、魅力を描くことができるようになること、また、経験を重ねた者ほど、手前や煎茶の美味しさなどの具体的な行為等と魅力が結びつけられるようになっている。

参加体験ありと回答した者の傾向と特徴

次に、参加体験ありと回答した者の回答傾向を分析する。参加体験をした者は、何らかのきっかけがあって煎茶道を体験する機会を得ており、しかし、習うまでには至ってはいない者と捉えることができる。ではどのような状況で体験機会を得たのか、また、習うまでには至らない事情や理由等があるのかをクロス集計を用いてその傾向と特徴を分析する。

■参加体験者の体験のきっかけと機会

体験のきっかけ（AQ9）を問う設問の結果から、学校や稽古場、文化施設等で行われた体験イベントがきっかけであるという回答比率が58.7%と最も多く、次いで、友人や知人などから勧められたとの回答比率が15.4%と、参加体験者の半数以上は体験イベントをきっかけに煎茶道の参加体験をしている傾向が見られる。また、煎茶道を体験した場（AQ10）については、学校の授業や職場での研修、部活動やサークル活動のイベントの回答比率が高く、学校や職場における体験イベントが中心となっている。

体験したきっかけと体験機会の関係性の特徴や傾向を明らかにするため、AQ9とAQ10のクロス集計の結果が下の表である。前述のとおり、体験したきっかけについて、学校や稽古場、文化施設等での体験イベント（58.7%）と回答した者のうち、「学校の授業や職場の研修会」（74.2%）、「学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント」（73.0%）で体験を行ったとの回答比率が高い。

他方、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（11.9%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（5.0%）を選択した者では、「自宅」で、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（11.9%）と回答した者は、「文化施設等で行われた体験イベント」（19.4%）、「教室や稽古場で開かれた体験会」（19.0%）で体験を行っていたことが確認できる。

このような結果から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけに、その場で行われた体験イベントで体験をした回答者が比率として高い傾向にあり、イベント等での体験機会による参加体験の提供が、煎茶道を見知る場として大きい位置を占めているものと推察される。

煎茶道を体験した場×煎茶道を体験したきっかけ

	n=	AQ9煎茶道を体験したきっかけ (%)									
		ど親がや習った兄弟姉妹、祖父母など	ど親が教えた兄弟姉妹、祖父母など	友人、知人、誘われたり勧められたり	学校や教室、体験イベント	知画、テレビ、ウェブや映画、アニメ、雑誌、漫画	道に興味や教養として、あつた、煎茶道	に煎茶道に関心がある仕事や職業	野分が興味を持った、習っている事と別の関係	その他	
全体	2,715	11.9	5.0	15.4	58.7	8.1	11.9	3.1	9.0	2.0	
教室や稽古場等で開かれた体験会	531	23.4	6.0	24.9	55.4	6.6	19.0	3.6	7.5	0.9	
学校の授業や職場の研修会	817	10.6	5.8	10.8	74.2	7.2	9.2	2.8	4.8	1.6	
学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント	815	8.5	5.2	16.3	73.0	10.3	12.3	3.8	5.4	1.6	
文化施設等で行われた体験イベント	809	12.7	4.8	22.1	60.8	11.6	19.4	3.2	7.7	1.1	
自宅	203	39.9	18.7	16.7	28.6	12.8	16.7	10.3	11.8	3.4	
自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験	193	9.3	6.7	16.6	21.8	7.8	15.0	8.8	56.5	-	
その他	67	16.4	3.0	20.9	31.3	4.5	6.0	-	6.0	35.8	

■煎茶道を習いやすい状況

煎茶道を習いやすい状況（AQ11）に関する設問の結果では、通いやすい場所（42.8%）、費用の手頃さ（41.4%）の2つが主な条件となっている。一方、煎茶道に支払える月額費用（AQ12）を見ると、「5,000円未満」（69.6%）、「5,000円以上～10,000円未満」（20.4%）と続き、回答者の90.0%が1万円未満の費用であれば習いやすいと回答している。

AQ11とAQ12のクロス集計の結果を見ると、「5,000円未満」を選択した者の中で、習いやすい条件として「その他」「わからない」以外を選択している者は、全体平均に近い回答比率が出ており、5,000円未満の費用であれば払いやすいと考えていることが分かる。また、5,000円未満の費用を選択した者の中でも、「習う時間帯を調整してもらいやすかったら」「指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら」「指導で教本やテキストを使っていたら」を選択した者は、全体平均の69.6%より回答比率が下回っている上、5,000円以上の選択肢の全体平均をやや上回っており、習うに際して具体的な疑問点を持っている者ほど、高い費用の選択肢を回答している傾向が見える。

煎茶道を習っていない理由（AQ13）に関する設問の結果では、「興味がなかった」（35.4%）が最も多く、次いで「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（29.4%）、「他の趣味や娯楽の方に 관심이向いている」（24.6%）と続く。AQ11の習う条件とのクロス集計を行い、参加体験者が習いやすい条件について分析を行う。

参加しやすい状況について「わからない」（19.6%）と回答した者のうち、習わなかった理由について「自分の趣味と合わない」（38.3%）、「興味がなかった」（33.0%）の回答比率が高く、体験をしても興味関心が湧かなかつたことが分かる。

一方、参加しやすい状況として、「通いやすい場所で習えたら」（42.8%）と回答した者が習っていない理由として「通いやすい場所に稽古場や教室がなかった」（62.2%）が最も多く、「稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった」（62.0%）、「カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった」（58.2%）と続き、身近な場所で習いたいと思う一方で、習う場所の雰囲気や内容に関心が向いている。「費用が手頃だったら」（41.4%）と回答した者の場合では、「習うための授業料等の費用が確保できなかった」（61.8%）、「習う内容についていけるかどうか不安がある」（60.2%）と続き、費用と内容について関心が高いことが分かる。

クロス集計の結果を見る限り、回答者にとって煎茶道を習いやすい状況とは、煎茶道を習わなかった事情や理由と密接な関係があり、習える場所、雰囲気、内容や費用などが参加体験をした者にとっての習う際のハードルになりやすくなっている傾向にあるといえる。

煎茶道を習いやすい状況×煎茶道に支払える月額費用

(%)

		AQ12煎茶道に支払える月額費用											
		500円未満	1000円未満	1500円未満	2000円未満	2500円未満	3000円未満	3500円未満	4000円未満	4500円未満	5000円未満	5000円以上	
n=		2,715	69.6	20.4	4.3	2.2	1.2	0.8	0.5	0.1	0.1	0.0	0.6
全体		2,715	69.6	20.4	4.3	2.2	1.2	0.8	0.5	0.1	0.1	0.0	0.6
家族や知人等、身近な人から習えたら		678	67.4	23.9	4.9	1.9	0.9	0.6	0.1	-	0.1	-	0.1
通いやすい場所で習えたら		1,161	69.6	22.4	4.7	1.6	1.1	0.3	0.3	-	-	-	0.1
費用が手頃だった		1,124	73.1	19.4	3.7	2.0	0.8	0.4	0.3	0.1	-	-	0.2
必要な道具等が借りられた		771	68.0	21.3	4.7	3.1	1.3	1.2	0.4	0.1	-	-	-
習う時間帯を調整してもらいやすかった		434	64.5	21.9	5.1	3.5	2.3	1.2	0.9	0.2	-	-	0.5
指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた		450	63.6	25.1	4.4	3.3	0.9	1.1	0.9	-	-	-	0.7
指導で教本やテキストを使っていた		125	54.4	24.8	5.6	2.4	2.4	3.2	1.6	1.6	0.8	0.8	2.4
その他		33	87.9	12.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
わからない		533	85.0	10.9	1.1	0.9	0.2	0.2	0.2	-	0.2	-	1.3

煎茶道を習っていない理由×煎茶道を習いやすい状況

(%)

		AQ11煎茶道を習いやすい状況									
		か家族や知人等、身近な人から習えたら	通いやすい場所で習えたら	費用が手頃だった	必要な道具等が借りられた	習う時間帯を調整してもらいやすかった	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた	指導で教本やテキストを使っていた	その他	わからない	
n=		2,715	25.0	42.8	41.4	28.4	16.0	16.6	4.6	1.2	19.6
全体		2,715	25.0	42.8	41.4	28.4	16.0	16.6	4.6	1.2	19.6
興味がなかった		961	22.0	32.6	35.3	22.6	12.7	11.8	2.9	1.7	33.0
通いやすい場所に稽古場や教室がなかった		798	29.6	62.2	55.1	39.2	23.6	22.7	6.8	0.8	6.5
習うための授業料等の費用が確保できなかった		361	28.8	51.2	61.8	40.7	26.6	24.9	5.5	1.1	7.2
習うための十分な時間が取れなかった		571	28.0	56.7	54.6	41.9	29.4	23.6	7.0	1.9	6.5
カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった		201	30.8	58.2	58.7	47.3	37.8	39.3	10.4	1.5	2.5
稽古場や教室等の雰囲気に分からなかった		213	29.6	62.0	58.7	46.9	32.9	34.3	10.3	0.9	5.6
習う内容についていけるかどうか不安がある		226	35.4	58.0	60.2	46.0	29.2	35.8	11.9	0.9	7.5
他の趣味や娯楽の方に興味が向いている		668	28.9	53.0	50.3	35.8	21.0	22.9	6.7	1.2	14.7
自分の趣味と合わない		300	21.0	26.7	30.0	17.0	8.3	13.3	4.7	4.0	38.3
その他		50	26.0	26.0	28.0	20.0	12.0	18.0	6.0	6.0	40.0

上記のクロス集計の結果から、煎茶道の参加体験ありと回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 参加体験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

AQ9とAQ10のクロス集計結果の分析から、学校や職場、文化施設で開かれていたイベントをきっかけに、その場で行われた体験イベントで体験をした回答者が比率として高い傾向にあり、他方、親族が煎茶道を習ったり教えていたりした場合は自宅が体験機会の場に、興味関心があった者は、文化施設等の体験イベントに参加して体験する等、きっかけの違いが、体験の機会に関係していることが分かる。

2) 参加体験者が考える習いやすい状況や内容についての傾向と特徴

参加体験者が煎茶道を習いやすい状況や内容について、月に支払える費用と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、月額費用として5,000円以上を支払うと回答した者ほど、習いやすい具体的な状況について回答している傾向にあり、煎茶道を習っても良いと考える者と捉えることができる。

習っていない理由と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、参加体験をしても煎茶道に興味を持てなかった者が一定数いる一方で、興味関心があっても通える場所がない等の事情があることが分かる。加えて、習うための時間の確保や、習う場所の雰囲気分からない等も回答として多く、参加体験者にとって、習う内容や機会に関する詳しい情報があつた方が、習い始めやすいと考えていることが、回答結果の分析からうかがえる。

経験ありと回答した者の傾向と特徴

経験ありと回答した者の回答傾向について分析を行う。経験者がどのような経緯や場所で煎茶道を習い始め、どの程度の者が継続してきたのかを分析することで、参加体験者と未経験者との違いを明らかにする。

■始めたきっかけと継続性及び継続理由

煎茶道を習い始めたきっかけ（AQ1）の結果では、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（28.7%）が最も高く、次いで「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（24.2%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（22.3%）、「学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」（15.8%）と続いている。また、興味関心があると回答した者は、親族が習っていた、友人・知人から誘われた、イベント等で体験したとの選択肢もあわせて選択している場合もある。以上の点から、経験ありと回答した者の身近には、煎茶道に関わる者がいたり、煎茶道に関する情報やイベントがあったりしたことで、煎茶道を習い始めるきっかけが生み出される背景があったことが推察される。

次に、習い始めたきっかけ（AQ1）と現在の継続状況（AQ3）についてクロス集計を行い、始めたきっかけと継続率の関係を分析する。継続率の全体平均（23.3%）に対し、「煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった」（59.6%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（52.4%）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（44.0%）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（42.3%）との回答者の継続率は平均を上回っており、反対に、非継続率の全体平均（76.7%）を比べると、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（81.9%）が全体平均を上回っているほか、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（79.8%）、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（78.9%）も全体平均をやや上回っている。親族などが煎茶道に関わっていることをきっかけとして習い始めた回答者の方が、継続率が高い傾向にあり、反対に、自分の趣味との関わりや教養として関心を持った者、あるいは友人・知人から誘われた者については、何らかの理由で継続できていない傾向にあることが分かる。

煎茶道を習い始めたきっかけ×現在の継続状況

(%)

	n=	AQ3 現在の継続状況	
		続けている	続いている
全体	1,019	23.3	76.7
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	227	42.3	57.7
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	147	52.4	47.6
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	247	21.1	78.9
学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	161	29.8	70.2
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	91	44.0	56.0
趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった	292	20.2	79.8
煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった	47	59.6	40.4
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	138	18.1	81.9
その他	42	4.8	95.2

継続理由に関する設問（AQ3補問1）では、「日本の文化だから」（48.1%）の回答比率が最も高く、次いで「指導者や教授者として活動したい（している）」（40.9%）、「一緒に楽しむ仲間がいる」（36.7%）と続いている。始めたきっかけ（AQ1）とのクロス集計を行い、継続する理由ときっかけの関係性について分析を行うと、まず継続理由として最も回答比率が高かった「日本の文化だから」（全体平均 48.1%）と回答した者の中でも「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（68.8%）、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（62.7%）の選択肢を、煎茶道を習い始めたきっかけであると回答している者の比率が高い。また、「指導者や教授者として活動したい（している）」（全体平均 40.9%）と回答した者の場合は、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（64.6%）と回答している比率が高い一方、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（28.8%）の回答比率が全体平均を大きく下回っている。

煎茶道を習い始めたきっかけ×煎茶道を続けている理由

(%)

	n=	AQ3補問1 煎茶道を続けている理由									
		指導者や教授者として活動したい（している）	日本の文化だから	一緒に楽しむ仲間がいる	もったりとした奥深い文化を	仕方や煎茶玉露等の淹れ方を	煎茶や玉露等がおいしく煎茶や	玉露等がおいしく煎茶や	し習って生いくうちに、暮らし	その他	特に理由はない
全体	237	40.9	48.1	36.7	26.2	21.1	21.9	0.4	1.7	0.8	
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	96	64.6	49.0	43.8	26.0	24.0	21.9	-	-	-	
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	77	39.0	68.8	44.2	42.9	27.3	28.6	1.3	-	-	
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	52	50.0	57.7	55.8	36.5	28.8	26.9	-	5.8	-	
学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	48	41.7	60.4	62.5	56.3	43.8	37.5	-	-	-	
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	40	47.5	50.0	65.0	50.0	32.5	30.0	-	-	2.5	
趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった	59	28.8	62.7	52.5	45.8	42.4	42.4	1.7	-	-	
煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった	28	60.7	46.4	60.7	57.1	60.7	42.9	-	-	-	
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	25	56.0	60.0	36.0	52.0	48.0	48.0	4.0	-	4.0	
その他	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0	-	

※n=30未満は参考値のため灰色

煎茶道から離れたきっかけや理由（AQ3補問2）を見ると、「時間がなくなった」（33.9％）と「近くに習う場所がなくなった」（31.8％）が大きな理由となっている。始めたきっかけ（AQ1）と離れたきっかけをクロス集計しその関係を分析すると、回答比率が最も高い「時間がなくなった」（33.9％）と回答した者のうち、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（44.3％）、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（40.0％）と続いている。次点の「近くに習う場所がなくなった」（31.8％）の回答者の場合、「学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した」（41.6％）、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（37.8％）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（37.3％）と続いており、興味関心を持って習い始めたとしても、一度習える場所が失われてしまうと継続できなくなってしまう傾向が見えてくる。また、「当初目標としていたことが達成できた」（全体平均 10.2％）と回答した者のうち、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（15.9％）をきっかけとした回答者の比率が高く、目的を持って習い始めそして辞めたという回答者もいることが分かる。

以上のような結果から、親族が煎茶道を習っていたり、教えていたりしたことを契機として習い始めた者については、継続性が高く、特に親族が教えている場合、自身が教授者として活動している（いた）傾向が見られる。

一方、煎茶道に対して趣味や教養の観点から興味関心を持ったり、友人・知人から誘われたりした場合の継続性は決して高い傾向とはいえない。これは、習う場所が失われてしまう場合があったり、目標を達成できたから辞めたりした、という事情もあることが結果からうかがえる。

煎茶道を習い始めたきっかけ×煎茶道から離れたきっかけや理由

		AQ3補問2 煎茶道から離れたきっかけ (%)										
		時間 が な く な っ た	近 く に 習 う 場 所 が な く な っ た	が 当 初 目 標 と し て い た こ と	興 味 を 失 っ た	く 経 済 的 に 続 け る の が 難 し	こ 健 康 面 、 体 調 面 で 続 け る	人 一 等 が 活 動 す る 家 族 や 友 人	い 習 っ て い る 内 容 に つ い て	た 指 導 者 や 教 授 者 を 引 退 し	そ の 他	
n=30以上で												
全体+10pt以上												
全体+5pt以上												
全体-5pt以下												
全体-10pt以下												
	n=											
全 体	782	33.9	31.8	10.2	19.1	6.3	4.3	9.1	3.7	10.2	6.8	
親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	131	44.3	35.9	12.2	17.6	6.9	2.3	11.5	1.5	9.9	3.1	
親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	70	40.0	25.7	8.6	24.3	4.3	5.7	18.6	2.9	11.4	2.9	
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	195	39.5	33.3	12.8	19.5	9.7	6.7	12.3	6.7	11.8	8.2	
学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した	113	36.3	41.6	9.7	20.4	6.2	3.5	11.5	3.5	6.2	4.4	
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	51	37.3	37.3	11.8	21.6	2.0	5.9	3.9	7.8	3.9	-	
趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった	233	36.5	37.8	15.9	17.6	6.0	7.3	6.4	2.6	9.4	5.6	
煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった	19	26.3	15.8	31.6	10.5	10.5	5.3	5.3	10.5	15.8	5.3	
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	113	28.3	25.7	4.4	10.6	8.8	6.2	8.0	3.5	23.0	5.3	
その他	40	27.5	27.5	2.5	15.0	-	-	5.0	2.5	-	37.5	

※n=30未満は参考値のため灰色

■活動内容

煎茶道に関する活動内容（AQ5）では、「教室や稽古場で習っている（いた）」（56.8％）の回答比率が最も高く、次いで「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」（23.0％）、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（20.3％）と続く。

まず、活動内容（AQ5）と現在の継続状況（AQ3）についてクロス集計を行い、活動内容と継続率の関係を分析する。このうち継続していると回答した者（23.3%）の中で、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」（54.1%）の回答比率が最も高く、次いで「指導者や教授者として教えている（いた）」（44.1%）と続く。

煎茶道に関する活動内容×現在の継続状況

(%)

	n=	AQ3 現在の継続状況	
		続けている	続けない
全体	1,019	23.3	76.7
教室や稽古場で習っている(いた)	579	19.2	80.8
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	207	54.1	45.9
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	234	34.2	65.8
指導者や教授者として教えている(いた)	68	44.1	55.9
その他	65	3.1	96.9

n=30以上で

- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

次に、活動内容（AQ5）と経験年数（AQ4）についてクロス集計を行い、その特徴や傾向について分析する。全体平均と回答比率に大きな差があるのは、経験年数「20年以上」（6.3%）と回答した者のうち、「指導者や教授者として教えている（いた）」（29.4%）の回答比率は全体平均を大きく上回っていることが確認できる。このほか、「教室や稽古場で習っている（いた）」と回答している者の継続率を見ると、3年以上になると全体平均と比べて回答比率が上がっていることが分かる。

煎茶道に関する活動内容×煎茶道を続けている年数

(%)

	n=	AQ4 煎茶道を続けている年数						
		1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~10年未満	10~20年未満	20年以上	3年以上合計
全体	1,019	19.0	32.4	24.2	13.1	5.0	6.3	48.6
教室や稽古場で習っている(いた)	579	16.4	30.4	26.3	14.7	5.9	6.4	53.2
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	207	16.9	28.5	28.5	16.4	4.3	5.3	54.6
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	234	14.5	35.5	23.1	14.1	5.6	7.3	50.0
指導者や教授者として教えている(いた)	68	14.7	16.2	19.1	13.2	7.4	29.4	69.1
その他	65	40.0	29.2	16.9	6.2	6.2	1.5	30.8

n=30以上で

- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

活動内容（AQ5）と活動頻度（AQ6）についてクロス集計を行い、その特徴や傾向を分析する。AQ6で最も回答が多かった「週に1回程度」（44.5%）と回答した者のうち、「教室や稽古場で習っている（いた）」（51.8%）が全体平均を大きく上回っており、教室や稽古場で習っている者の場合、週1回程度通っていることが分かる。このほか、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）」の項目でも、「週1回程度」の回答比率が他の活動頻度と比べても高く、煎茶道を習う者の場合週1回程度の

活動頻度が最も多いことが分かる。また、「指導者や教授者として教えている(いた)」と回答した者でも「週1回程度」(20.6%)の回答比率が他の活用頻度の回答比率と比べても高いことから、指導者や教授者も週1回程度の頻度で教室を開いている者が多いものと推察される。

煎茶道に関する活動内容×煎茶道に関する活動頻度

	n=	AQ6 煎茶道に関する活動頻度 (%)						
		ほぼ毎日	週に2~3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度
全体	1,019	6.5	10.4	44.5	14.9	8.9	3.4	11.4
教室や稽古場で習っている(いた)	579	7.6	6.2	51.8	13.8	8.5	2.8	9.3
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	207	7.7	22.2	38.2	16.9	7.2	3.9	3.9
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	234	9.0	18.8	38.0	15.4	9.4	2.6	6.8
指導者や教授者として教えている(いた)	68	13.2	14.7	20.6	14.7	14.7	5.9	16.2
その他	65	4.6	3.1	23.1	9.2	6.2	6.2	47.7

活動内容(AQ5)と毎月使う費用(AQ7)についてクロス集計を行い、その特徴や傾向を分析する。月額費用の中で最も回答比率が高い「5,000円未満」(53.0%)と回答した者の回答比率は、各活動内容においても最も回答比率が高いことが分かる。また、「教室や稽古場で習っている(いた)」(54.6%)、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)」(49.6%)の2項目は、他の月額費用の回答比率よりも高い。

次に月額費用で回答比率の高かった「5,000円以上~10,000円未満」(22.8%)の項目では、「教室や稽古場で習っている(いた)」(25.6%)、「カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)」(25.1%)の2項目が全体平均を少し上回っている。また、「10,000円以上~15,000円未満」(9.2%)の項目では、「カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)」(16.9%)、「指導者や教授者として教えている(いた)」(16.2%)と全体平均を上回る回答比率になっていることから、カルチャーセンターで受講する者、指導者・教授者として活動している者で月額費用の傾向にばらつきが見られる。

煎茶道に関する活動内容×煎茶道に関する月額費用

	n=	AQ7 煎茶道に関する月額費用 (%)											合計
		5000円未満	15000円未満	11500円未満	21000円未満	22500円未満	32000円未満	33500円未満	43000円未満	44500円未満	54000円未満	5000円以上	
全体	1,019	53.0	22.8	9.2	4.2	4.0	2.2	0.7	0.6	0.6	0.5	2.3	24.2
教室や稽古場で習っている(いた)	579	54.6	25.6	8.8	2.9	3.3	1.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.7	19.9
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	207	29.5	25.1	16.9	8.7	6.8	5.8	1.4	1.0	1.4	1.0	2.4	45.4
学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している(いた)	234	49.6	16.7	6.4	4.7	9.8	4.3	1.3	1.3	1.7	0.9	3.4	33.8
指導者や教授者として教えている(いた)	68	22.1	11.8	16.2	10.3	10.3	5.9	1.5	1.5	1.5	1.5	17.6	66.2
その他	65	89.2	6.2	1.5	-	3.1	-	-	-	-	-	-	4.6

■経験年数

煎茶道を続けている（続けていた）年数（AQ4）の結果では、「1～3年未満」（32.4%）の回答比率が最も高く、次いで「3～5年未満」（24.2%）、「1年未満」（19.0%）と続いている。

経験年数（AQ4）と習い始めたきっかけ（AQ1）のクロス集計を行い、傾向と特徴について分析する。全体平均と回答比率の差が大きいところに着目すると、「親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた」（22.3%）と回答した者の中では、「20年以上」（42.2%）、「10～20年未満」（35.3%）の回答比率が高いほか、「親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた」（14.4%）と回答した者の中で、「10～20年未満」（25.5%）の回答比率が高く、「5～10年未満」（24.1%）、「20年以上」（23.4%）も全体平均を上回っている。このほか、「趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった」（28.7%）を回答した者のうち、「5～10年未満」（39.1%）が全体平均を大きく上回っている。

煎茶道を続けている年数×煎茶道を習い始めたきっかけ

	n=	AQ1 煎茶道を習い始めたきっかけ (%)									
		ど親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた	ど親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた	れた友人、知人、勧められた人などから誘われた	た友人、知人、勧められた人などから誘われた						
全体	1,019	22.3	14.4	24.2	15.8	8.9	28.7	4.6	13.5	4.1	
1年未満	194	15.5	8.8	20.6	13.9	10.8	22.7	2.1	13.4	6.2	
1～3年未満	330	16.1	8.8	26.4	17.0	7.6	24.8	1.2	13.6	5.5	
3～5年未満	247	25.5	16.6	23.1	15.0	7.3	32.8	5.7	10.5	2.8	
5～10年未満	133	27.1	24.1	26.3	17.3	9.8	39.1	9.8	14.3	1.5	
10～20年未満	51	35.3	25.5	27.5	9.8	11.8	25.5	7.8	13.7	2.0	
20年以上	64	42.2	23.4	21.9	20.3	12.5	31.3	12.5	23.4	3.1	

次に経験年数（AQ4）と習い始めた当初の習い方を選んだ理由（AQ2補問）のクロス集計を行い特徴及び傾向について分析する。

全体平均よりも回答比率が高い箇所として、「本格的に習ってみたかった」（14.0%）で5年以上の経験年数の回答比率が全体平均と比べて高いことが分かる。そこで経験年数が長いと回答した者で、回答比率が高いところに着目すると、「家族や友人等と一緒に良かった」（27.5%）で、「10～20年未満」（49.0%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「20年以上」（35.9%）の回答比率も全体平均を上回っている。また、「通いやすい場所だった」（41.2%）と回答した者のうち、「5～10年未満」（50.4%）、「10～20年未満」（47.1%）の回答比率が全体平均を上回っていることから、経験年数が長い者が当初の習い方を選んだ理由の傾向として、本格的に習うことに加えて、家族や友人と一緒に通いやすい場所で習い始めていた傾向が見える。

一方、経験年数が短い者に注目すると、「特に理由はない、わからない」（11.2%）と回答した者の中で、「1年未満」（23.2%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「手軽に習ってみたかった」（25.4%）を選んだ回答者の中では、「1～3年未満」（30.3%）、「1年未満」（26.8%）と、全体平均を少し上回っている。また、「通いやすい場所だった」（41.2%）では、「1～3年未満」（41.8%）は全体平均を少し上回る回答比率であるが、「1年未満」は（24.7%）と全体平均を大きく下回って

いる。このことから、1年未満、1年以上3年未満と回答した者は、習い始めは手軽に習いたい、また、家族や友人と一緒に習えればと考えていた傾向がうかがえる。

煎茶道を続けている年数×当初の習い方を選んだ理由

	n=	AQ2補問 その方法を選んだ理由 (%)									
		か家族や友人等と一緒に良かった	通いややすい場所だった	費用が手頃だった	道具等が借りられた	通いやしやすい時間帯だった	レム、指、導、法、が、具、体的、に、示、さ、れ、た	た、本、格的、に、習、っ、て、み、た、か、つ	手、軽、に、習、っ、て、み、た、か、つ	そ、の、他	特、に、理、由、は、な、い、わ、か、ら
全 体	1,019	27.5	41.2	19.8	13.3	17.9	7.5	14.0	25.4	1.3	11.2
1年未満	194	23.2	24.7	11.9	6.7	7.2	1.5	4.6	26.8	2.1	23.2
1～3年未満	330	25.8	41.8	23.3	13.3	20.6	5.5	10.3	30.3	0.9	10.3
3～5年未満	247	25.9	47.8	22.7	14.6	20.2	9.3	14.6	23.1	2.0	7.7
5～10年未満	133	28.6	50.4	20.3	20.3	23.3	17.3	24.1	18.8	0.8	5.3
10～20年未満	51	49.0	47.1	23.5	17.6	17.6	5.9	25.5	19.6	-	3.9
20年以上	64	35.9	39.1	10.9	10.9	15.6	9.4	29.7	23.4	-	10.9

経験年数（AQ4）と煎茶道に関する興味関心や魅力（AQ8）のクロス集計を行い、特徴や傾向について分析する。

興味関心や魅力として最も回答比率が高かった「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」（50.3%）については、全体平均と比べる低い回答比率があるものの、どの経験年数の中でも比較的高い回答比率であることが分かる。

次に全体平均と回答比率の差がある箇所に注目すると、経験年数が「1年未満」と回答している者で、「上記の中で当てはまるものはない」（22.7%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「その他」を除く魅力・興味関心の回答比率が全体平均を全て下回っていることが確認できる。

その一方、経験年数が5年以上と回答している者に注目すると、「20年以上」と回答した者で魅力や興味関心について「手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる」を除き、全ての項目が全体平均を上回っている。また、「10～20年未満」、「5～10年未満」と回答している者については、「上記の中で当てはまるものはない」を除き、全ての項目で全体平均を上回っていることが確認できる。

以上のとおり、経験年数が短い者の場合、魅力や興味関心の選択肢で当てはまるものがないとの回答比率が高い上、経験年数に依拠することなく感じる事ができる「煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける」に回答が集中している。一方で経験年数が長くなると、煎茶や玉露の美味しさはもちろんのこと、煎茶席のしつらいや、主客の心の交わり等の魅力や興味関心へ回答比率が高くなっていることから、経験年数の長さによって魅力や興味関心を捉える幅が異なるものと推察される。

煎茶道を続けている年数×煎茶道に関する興味関心や魅力

(%)

		AQ8 煎茶道に関する興味関心や魅力								
		い 煎 し 茶 く や い た だ け を 淹 れ 、 お	等 手 の 淹 れ 方 法 が 分 か る お 玉 露	こ 煎 茶 席 の 感 じ る こ と が や り そ	が 落 着 か せ た り す る こ と	集 中 力 を 高 め た り 、 心 を	主 客 の 心 の 交 流	て 日 本 内 外 に 統 知 的 な 文 化 化 し	そ の 他	の 上 記 の 中 で 当 て は ま る も
	n=									
	全体	1,019	50.3	45.9	31.7	32.5	11.1	23.1	0.6	10.0
	1年未満	194	44.3	28.4	11.9	17.0	4.6	14.4	1.0	22.7
	1～3年未満	330	51.5	43.3	28.2	32.1	11.5	22.4	0.6	9.1
	3～5年未満	247	46.6	52.2	39.7	34.0	7.7	23.9	0.8	6.5
	5～10年未満	133	55.6	60.2	43.6	43.6	11.3	25.6	-	1.5
	10～20年未満	51	62.7	72.5	47.1	41.2	19.6	27.5	-	2.0
	20年以上	64	56.3	37.5	42.2	45.3	34.4	40.6	-	14.1

n=30以上で

- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

上記のクロス集計の結果から、煎茶道を習ったことがあると回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

1) 習い始めたきっかけと継続率に見える傾向と特徴

煎茶道に関わる仕事や職業に興味があった者や、親族等が煎茶道を教えていたり、習っていたりしたことをきっかけで煎茶道を始めた者、テレビ等のメディア等で知って煎茶道を始めたと回答している者の継続率が高い傾向にあり、このうち、親族が煎茶道を習っていた者は、指導者や教授者として活動したい（している）との回答比率が全体平均より高い傾向にある。

一方で、趣味や教養として興味関心を持った者の継続率は低い傾向にあるが、習う時間がなくなったり、習う場所がなくなったり、あるいは目標を達成したりして辞めたりといった、継続していない理由や事情があることが見えてくる。

2) 活動内容と継続している状況や年数から見える傾向と特徴

カルチャーセンターで煎茶道の講座を受講している者や、指導者・教授者として活動している者の継続率が高い傾向が見られる。このうち、指導者・教授者として活動している者は、20年以上の経験年数である者が多い。また、教室や稽古場で習っている者の場合、経験年数3年以上の回答比率が全体平均より少し高い傾向にあることが分かる。

次に活動頻度については、教室等で習っている者、カルチャーセンターで受講している者、同好会やサークルで活動している者、指導者・教授者、いずれの活動内容を回答している者も、「週1回程度」の回答比率が高い。特に教室や稽古場で習っている者の多くは週1回との回答比率が高い。その一方、カルチャーセンターで受講している者や同好会やサークルで活動している者は、週1回、週2～3回程度、月数回程度の回答に分散しており、各活動内容による頻度の違いが見られる。また、月額費用については、教室や稽古場で習っている者の多くが「5,000円未満」「5,000円以上～10,000円未満」の回答比率が高く、月額費用として10,000円未満で習っている者が多いことが分かる。一方、カルチャーセンターで受講している者や指導者・教

授者として活動している者は月額 10,000 円以上を払っている者が多くいることが回答比率の傾向から見え、活動内容によって月額費用の傾向が異なることが分かる。

3) 経験年数と習い始めたきっかけや魅力から見える傾向と特徴

経験年数と習い始めたきっかけとの関係を見た場合、親族等が煎茶道を習っていたあるいは教えていたと回答した者では 10 年以上の経験年数を回答する者が多い傾向にある。

次に当初の習い方を選んだ理由と経験年数と関係については、経験年数が 10 年以上の者で、本格的に習いたい、家族や友人と一緒に習いたい、の 2 項目について回答比率が高い傾向にある。一方、経験年数が 1 年未満の者は、手軽に習いたい、通いやすい場所を重視している傾向にあるが、習う方法を選んだ理由は特にないという回答比率も高い傾向が見られる。

経験年数と興味関心や魅力との関係を見た場合、煎茶や玉露等の美味しさについては、どの経験年数の中でも比較的高い回答比率であり、経験を問わずに魅力として感じられていることが分かる。一方、経験年数が長くなると、しつらいや心の交わり等の項目の回答比率が高くなる傾向にあり、経験を重ねていくことで魅力や興味関心の捉え方が変化していることが推察される。

③分析結果のまとめ

煎茶道の経験・体験の有無や、経験者や参加体験者、未経験者の煎茶道に関する活動状況や興味関心の度合いを把握することを目的としてウェブアンケートを利用した調査を実施した。

調査結果からは、煎茶道の未経験者が圧倒的に多いことが分かった。未経験者が多いことについては、設問群の回答結果からも見えるように、煎茶道に興味関心が持てなかった者がいる一方で、そもそも煎茶道を知らなかった者が多くいること、また、煎茶道を知っていたとしても、体験できる場がなかった、あるいは場を知らなかった事情があり、参加体験には至らなかったことが明らかになった。

反対に、経験者や参加体験者の場合は、煎茶道について知る機会や体験をする場に接する機会があったことから、煎茶道を経験することができたことが分かる。経験者の場合は、煎茶道に対して興味関心があった、友人・知人に誘われた、親族が煎茶道を習ったりしていたことが煎茶道を習い始めるきっかけとなっている。一方、参加体験者の場合は、学校や稽古場、文化施設等での体験イベントをきっかけとして体験をしており、経験者・参加体験者・未経験者のそれぞれに、煎茶道を知る機会、接することができる機会や環境に大きな開きがあることが、調査結果の分析から見えてくる。

経験者の活動状況等については、約8割は継続していない状況で、継続している者については若い世代の方が継続しているほか、経験年数が長いほど継続している。一方で、継続していない者が続けられなかった事情からは、習う場所がなくなった、時間がなくなった等の事情があることが傾向として見え、回答者の環境を整えば再開する可能性があることも推察される。

参加体験者の活動状況等については、参加体験をしたきっかけと体験した機会のクロス集計から、学校や職場等で体験機会を得たとの回答比率が高い傾向にあり、煎茶道の指導者・教授者がこれらの場において、体験機会の醸成などを図っている事例もあることから、煎茶道を参加体験する大きなきっかけとして作用していることが分かる。また、参加体験者がこれまで煎茶道を習うに至らなかった理由や事情からは、参加体験をしても興味関心を持てなかった者もいる一方で、通いやすい場所や時間帯、習う内容の明示等がされていれば習いたいと考えている者がいることから、習う内容等の情報を明示するなどの工夫をすることで、習いに通いたい人に機会を提供できる可能性があることが分かる。

上記の結果から、煎茶道の経験者や参加体験者を増やしていく場合、学校や職場等での体験機会のみならず、煎茶道を体験できるイベントなどを広く行うと共に、これらの体験機会自体を広く周知していくことで、経験者や体験者を増やす可能性が広がるものと考えられる。また、習うことができる場所の周知をはじめ、習う内容や時間帯など、習いたいと考えている者に適切に情報を伝えていくことも有効な取組として考えられる。